

## 第1号議案

### 2019年度事業報告

#### I. 2019年度支部通常総会

2019年5月21日(火) 建築家会館1階ホールにて開催。支部規約第9条(支部正会員の10分の1)に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認した。

- 議案1. 2018年度事業報告承認の件
- 議案2. 2018年度収支決算承認の件
- 議案3. 支部役員選出規約改正の件
- 議案4. 支部役員及び支部監査選任の件

総会終了後、「地域会活動の近未来」をテーマに「会員集会」を開催し、終了後、引き続き、来賓・法人協会会員・正会員を交えた懇親会を併せて開催した。

#### II. 役員会関連報告

##### 1. 役員会・常任幹事会(幹事長:榎本雅夫)

役員会を年5回、常任幹事会を年8回開催した。常任幹事会では毎回様々な論点から活発な協議が重ねられた。役員会においても単に採決の場ではなく、出席者の発言や課題提起の機会を増やすことによって連携が高められた。委員長・地域サミットのワールドカフェ方式の採用、集会等の行事の複合化も含めた柔軟な対応は、今後も効果的であると思う。

都内の地域会を対象に立ち上げた事業調整WGも連携強化の一環である。各地域会の活動内容の共有、地域会連携の活性化、来年度の地域活動費予算方針等に関する意見交換を行った。

支部予算については、今年度の執行状況の確認、及び来年度の方針と予算案について協議を行った。(事業調整WG、来年度予算については総務委員会活動報告を参照されたい)支部組織として位置づけられた空間ワークショップフォーラムについては、来年度より活動費を予算計上することとした。来年度に向けて課題点を挙げれば、これまで前年度を踏襲してきた委員会活動に関する予算編成を、次年度活動計画を反映できる方法にシフトすることが望ましいのではないかと。

新型コロナウイルスが拡散している現状に鑑み、当面は集合型の会議や集会等を避けざるを得ないだろう。WEB活用をこれまで以上に発展させるなど、会員同士の意思疎通、組織内の「見える化」が不可欠と言える。

##### 2. 地域サミット(担当副支部長:慶野正司)

昨年度より、支部内活動の連携促進を目的に地域サミットと委員長会議を合同会議形式で行ってきました。そして本年度は、更に活発な意見交換を目指して、委員会、地域会の隔てなく支部の抱える課題を抽出し5グループによるワールドカフェ方式での開催を試みました。その結果、期待通り各グループでは意見交換が活性化し有意義な機会となりました。予定では7月、11月、3月と3回の合同会議開催を予定していました

が、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み残念ながら3月開催は中止し、情報共有のためのグループディスカッション記録などの書類送付に止まりました。2回の意見交換テーマは以下の通りです。

第1回:2019/7/26

- ① 委員会・地域会の活動連携について
- ② 助成金(協賛金)他活動費について
- ③ 2020年度予算方針について
- ④ 支部活動・運営・その他について

第2回:2019/11/22

- ① 委員会・地域会の活動連携について
- ② 支部活動・運営・その他について

以上、2回の意見交換に基づきアクションプラン(案)を設定し、その難易度、優先度を判断しながら今後の活動に活かして参りたいと思います。

ご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます、報告といたします。

#### III. 委員会活動報告

##### 1. 総務委員会(委員長:榎本雅夫)

###### ■会員集会・新会員の集い・新春の集い

「地域会活動の近未来」(5月21日・支部総会と併催)、「委員会活動の近未来」(7月26日・第1回委員長・地域サミット合同会議と併催)と題し、JIAの活動基盤である地域会と委員会活動について、近未来をキーワードに会員集会を開催した。事例プレゼンを通して、多様な活動の継続や、他の組織との積極的な連携の可能性を感じる集会となった。

毎年開催している新会員の集いは7月の会員集会と複合化して行事の効率化を図ると同時に、これまで以上に会員・新会員相互が交流しやすいオープンな環境をつくった。六鹿会長には「建築家の近未来」と題してご講演をいただいた。

新春の集い(1月21日)では「SDGs×建築家×JIA」をテーマに六鹿会長からプレゼンを、SDGs建築ガイド日本版の編集に携われた高階澄人会員から出版本の解説をいただいた。

###### ■事業調整WG

都内地域会のより合理的な活動につなげることを目的に6月から8月にかけて3回開催し、各地域会の活動状況をWGメンバーで共有した。支部長を始め常任幹事会や総務委員会とダイレクトな情報共有ができたことは意義深く、来年度も開催することとなった。

来年度の地域活動費については、事業計画の内容に応じて地域会毎に予算編成をする案を協議したが、事業に対する査定が困難であることから都内の地域会は一律とした。また、支部の厳しい財政状況に鑑み、現行より削減して予算化する方針となった。また、協力会や協賛企業との連携強化も話し合われた。

## ■予算収支計画

会員減少による収入減に対し、毎年対応策を立てて収支バランスを取っている。今年度は主に委員会活動にかかわる経費の5%削減、収益の5%増に加え、事務局残業の20%減を掲げた。さらに来年度は地域活動運営費を現行より15%削減し、150万円弱の支出削減を図ることとした。活動基盤に直結する費用の削減は苦渋の選択であるが、関係各位においては、これまでの多様な活動の維持・発展にご尽力いただきたい。

## 2. 広報委員会（委員長：市村宏文）

2019年度は、支部サイトと広報誌の内容の充実させた年となりました。

今年度の主な活動をご報告いたします。

- ・毎月1回の委員会開催、Bulletin 編集ワーキング、HP ワーキングもそれぞれで月1回開催しています。
- ・広報誌 Bulletin の発刊。年間テーマによる紙面構成となり、多彩な方面で活躍している方からの執筆をしていただきました。最後の締め括りとして、初めて広報委員会主催のシンポジウム（紙面連動企画）を開催いたしました。こちらは皆様の多大なご協力により成功裏に終了しました。
- ・支部サイト（ホームページ）は、委員会・地域会のサイト上での活動報告が充実してきました。使用状況についてはワーキングで確認しています。
- ・2018年度末より準備を進めていました、学生が中心となり運営をしているサイト「LUCHTA(ルフタ)」との企画の実施を始めました。当面はJIAの認知を目的にプレゼントコーナーへの支部関連の資料（地域会冊子等）を提供しています。また、支部の様々な学生向けイベント情報を提供し、LUCHTAサイトでの告知も始めました。

## 3. 建築相談委員会（委員長：大竹司人）

支部地域会相談室は、一般市民のための身近な建築相談窓口（無料相談）として下記6か所の相談室で総計72名の相談員が対応しています。

2019年度の相談件数は下記の通りです。

（ ）の数字は昨年度の数字です。

相談室	一般相談	トラブル相談数	相談件数	現地調査数
首都圏	39 (35)	118 (92)	157 (127)	19 (15)
神奈川	31 (22)	8 (15)	39 (37)	2 (2)
千葉	2 (0)	2 (4)	4 (4)	0 (0)
埼玉	7 (7)	54 (71)	61 (78)	3 (2)
群馬	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
新潟	0	0	0	0
合計	79 (64)	182 (182)	261 (246)	24 (19)

全体の相談数261件のうち、一般相談は79件、トラブル相談は182件でした。トラブル相談は全体の69.7%を占めています。

### ○委員会の活動

- ・JIA建築相談会議では、10月17～19日の青森 in 弘

前での全国大会で、18日に建築相談全国会議を開催しました。北海道、東北、関東甲信越、四国の4支部の参加で報告と意見交換を行いました。各支部それぞれに地域性や相談員数、相談エリア等の事情がありますが、情報の共有と共通の課題に対し理解を深めることができました。昨年度は7支部の参加があり、来年度は昨年度以上の参加を期待したい。

・(公財)住宅リフォーム紛争処理支援センターおよび東京都消費生活総合センターとは建築相談の連携協力を継続しています。

○研修WGは、11月20日に千葉県文化会館にて研修会を開催。午前中に見学、午後には各地域会から1～2件の相談事例を持ち寄り、合計7件の報告と意見交換、懇談会を行いました。33名の参加で有意義な研修会となりました。

## 4. 保存問題委員会（委員長：窪寺弘行）

保存問題委員会では、『保存は未来への創造である』—“保存”と“創造”とは同義である—と考えており、古い建築物の保護といった狭義の“保存”でなくサステイナブルな都市環境の形成を主題としてとらえ、活動しています。

特にモダニズム建築において取り壊しが無造作に進む現在の状況下は、取り壊しを契機に提起される保存問題が、何をわれわれに問いかけているのかを見つめなおす良い機会でもあります。

2019年度保存問題委員会では、国立公文書館（憲政記念館）について、要望書提出後のフォローアップとして「衆議院憲政記念館（旧尾崎記念会館）」シンポジウム開催検討、葛西臨海水族園について保存利活用シンポジウム参加また保存問題委員会としての今後の活動検討、JR原宿駅舎の解体・再生案についてTVメディアへのコメント発表、旧九段会館建替事業に関する見学会開催検討、岸田日出刀氏設計の「白日荘」解体計画に関する情報収集、また横浜市旧庁舎活用案に関する情報収集、旧豊多摩監獄正門の保存利活用に関する意見交換等を行ってまいりました。

保存問題は一般市民をも取り込んだ活動が重要と考えられ、今後保存再生会議、他支部、他団体、支部内他委員会との連携がますます必要かつ重要となるように思われます。

## 5. 苦情対応委員会（委員長：板橋弘和）

苦情対応委員会は、建築主や一般市民から本会会員が設計した建物や会員に係る苦情に対応する組織であり、公益法人には不可欠なものとして活動をしてまいりました。委員会は、公正な立場で活動するため、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む専門的知見をもった、9名の委員で構成されています。

今年度は1件の苦情相談がありました。

この苦情の内容について当委員会で対応を行うべきかどうか迷うところがあり、委員会で協議の結果、申立て人の方には事情を説明し、対応をお断りすることとなりました。この検討の際に、現在の規程における苦情対応の運用に若干の検討が必要なが判りました。

また、関東甲信越支部以外の支部における苦情対応と若干運用方法が違っていることも見えてきました。

今後は、他支部との情報交換も積極的に行い、JIA 会員である建築家への信頼向上に資するための仕組みづくりに取組むと共に、実際の苦情対応に取組んで行く所存ですので、皆さまのご協力をお願いいたします。

## 6. 支部建築家資格制度実務委員会（委員長：米田雅夫）

当委員会は「建築家資格制度」の運営のために支部認定評議会並びに本部建築家資格制度実務委員会の補佐を目的としています。活動は登録建築家の新規申請、更新申請、再登録申請の審査書類及び更新要件等を確認した上で、支部認定評議会への審査資料作成です。

評議会は議長：JIA 会員そして東京弁護士会、建築士会連合会、日本建築学会及び東京消費生活支援センターの各1名の委員、計5名により構成されています。

昨年度は実績評価認定による新規登録者数 17 名、更新者 279 名、再登録者 29 名の 325 名が支部認定評議会を経て本部認定評議会に報告、提出されました。

今年度もCPD単位不足で更新要件を満たさないため後進に至らなかった登録建築家があります。これは同時にJIA正会員要件をも満たさないことでもあり早急に改善策を要する事態です。

今年度は実務訓練認定者はいませんでした。本来の登録建築家は実務訓練認定者です。実務訓練は登録建築家のもと、700 単位及び期間 3 年以上の実務訓練を終了した上で、支部実務委員会または評議会による口頭試問（面接）を受けて総合的に審査され認定されます。実務訓練は実務訓練ノートに従い評価されます。昨年度末の支部認定評議会でも、体系的にまとめられている実務訓練ノートは実際に使って分かり易く、また良い制度なので広く一般にも広報すべきではないかという意見がありました。

登録建築家制度はJIAが率先して建築家職能法制定を目指した運動でありJIA会員資格とは別物です。JIA会員の登録申請者の中には十分理解しないで登録申請をされた方もいます。現状は制度発足後時間がたつに従い、制度の趣旨そのものの理解の希薄化を懸念するものであります。

## 7. 都市・まちづくり委員会（委員長：近藤崇）

当委員会では、より良い景観・まちづくりを行うために、JCCA（建設コンサルタント協会）との協働を軸に以下の様な活動を行っています。

まず、2009 年より続けている土木分野（≡Built Environment）との協働活動として、建設コンサルタン

ツ協会との協働シンポジウム「誰が景観を創るのか」の第 13 回を JIA 弘前大会に合わせて開催しました。今回は 2018 年土木学会デザイン賞最優秀賞を受賞、その美しい景観が高く評価されている「津軽ダム」を題材とし、建築と土木の協働によって生み出された「津軽ダムのデザイン」の社会的価値を検証しました。弘前大学の北原啓司先生をコーディネーターにパネルディスカッションを実施。景観デザインに関わった土木設計者、建築設計者、そして発注者である国交省ダム管理事務所の担当者、加えてこの景観を資産としてダムツーリズムを運営する地元自治体の担当者をお招きし、その協働の過程や関係者の景観づくりに注がれた強い意志を確認しました。

その他、通常の委員会活動の中でも、まちづくりに関わる様々な分野の専門家をお招きし、勉強会を開催しています。また建築五団体や地方自治体で構成する「景観まちづくり協議会」のWG委員会に委員を派遣し、自治体に向けたデザインレビューガイダンスの支援を行っています。

## 8. 建築・まちづくり委員会（委員長：連健夫）

当委員会は、まちづくりを通じた建築家の職域を拓げる仕組づくりを主目的としており、JIA の事業計画にあげられている「まちづくりの市民活動や行政への支援・提言、他団体と連携した都市問題に関する調査研究、日本版CABEに関する調査研究」の方針にそった活動を行っています。具体的には①コンペプロポーザル支援リーフレットの頒布と展開、②地域のまちづくり活動の相談や支援、③まちづくり萌芽事例シートによる情報共有や研鑽、④JIA 機関誌を通して会員への発信、⑤他団体の協働や連携活動、です。2019 年度においては、日本建築まちづくり適正支援機構との共催で、「ADR 調停人とは何か？」のセミオープン勉強会、杉並区のまちづくり条例を取り上げての意見交換、発信においては、ブルチンにて「これからの空き家対策と建築家への期待」「計画助成における専門家派遣制度」等の寄稿を行いました。2020 年度は、これらの活動を深めると共に、10 月に予定されているSDGs 建築フォーラムに向け、まちづくりとしての立場から提案すべく議論を深める予定です。

## 9. 災害対策委員会（副委員長：郡山貞子）

2019 年 9 月台風 15 号は千葉県を中心に強風による建物被害、停電が発生し、断水等の影響で熱中症等の 2 次被害も発生しました。台風 19 号は静岡県や関東甲信越地方・東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり多くの河川で氾濫が発生し土砂災害や浸水害も相次ぎました。JIA 長野地域会は建築関連団体、他の専門士業団体と長野県建設部住宅課により構成されている「長野県建築相談連絡会」と協力して、住宅相談の始まるに当たり同連絡会による「台風 19 号被災者に対する建築・住宅相談員のための研修会」を受けた

上で現場調査を含む建築住宅相談が 11 月より実施されています。

委員会では委員の所属する各地域での情報を報告・共有しています。

災害は、地震・風・水・地盤による建物被害はもとより、地域によって災害の状況が異なり多義にわたります。支部の災害対策委員会として災害にいかに対応すべきか、委員としての役割を明確にしようとしています。

建物被害だけでなく暮らしに影響を与える、例えば新型コロナウイルスのように建築換気設備等の必ずしも正しくない情報により暮らしに不安を与えているような状況に対しても市民に向けて発言してゆく必要があると考えます。

7 月には JIA も構成団体の一員である災害復興まちづくり支援機構において東京都と連携して、防災と復興支援とそのため的事前対策に関するシンポジウムを開催しました。

また、支部と東京都(担当都市整備局市街地建築部)は「被災建築物応急危険度判定の応援協力に関する協定」を締結、今後運用について協議する予定です。

引き続き「JIA の BCP」を見直しており、JIA の DCP と JIA 災害ネットワークを公開の予定です。

#### 10. 国際事業委員会 (委員長: 小坂幹)

国際事業委員会は、関東甲信越支部所属の委員会ではありますが、実際の活動は、JIA と各国建築家協会との直接的なコミュニケーションが主となり、本部国際交流委員会の活動とほぼ重なるという実態であったため、本年度においては、その委員会活動と委員の所属を本部国際交流委員会(2019 年 6 月からは国際委員会)に移行することを前提として委員会活動を 4 月から 6 月までに限ると同時に縮小し、活動を停止しました。現在は本部国際委員会としての活動をおこなっておりますが、今年度の委員会活動は下記の通りです。

ARCASIA ダッカフォーラム 20 に六鹿会長を筆頭に総勢 11 名を派遣し、理事会と 5 つの委員会や他の公式行事に参加しアジアの建築家との交流を深めました。また、アルカジアの 5 つの委員会の Round Table (建築教育委員会・職能委員会・環境建築委員会・社会的責任委員会・次世代委員会)に委員を送り、委員会活動の活性化に努めました。UIA については、アゼルバイジャンのバクーで開催された UIA Forum とバングラデッシュのダッカで開催された SDGs 委員会へ参加をいたしました。特にダッカの SDGs 委員会出席は、JIA が発行した SDGs のガイドブック出版の契機となり、JIA が日本の建築界における SDGs の活動を具体的に示す実績をつくることができました。また 2 国間における活動においては、本年も米国建築家協会ラスベガス大会への出席ならびに IPF (国際会長間会議)での意見交換、タイ王立建築家協会バンコク大会への出席をおこない、両協会との交流活動を行いました。その

他にもスウェーデン建築家協会やスリランカ建築家協会への大会参加等を行いました。

また本年は各国建築士制度および外国人建築士制度についての調査を行い、ARCASIA 建築士制度や、ACE (欧州建築家会議)におけるヨーロッパにおける建築士制度について意見交換を行い、今後の資格相互認証に関する可能性の調査を行いました。

#### 11. 環境委員会 (委員長: 長井淳一)

持続可能な環境建築の推進と実践に向け、会員並びに社会に有用な情報を発信することを活動目標としています。今年度は次の活動を行いました。

- 1 JIA 環境建築賞作品見学ツアー
- 2 改正省エネ法と JIA 会員の今
- 3 SDGs セミナー

1 は最新の環境建築手法を学ぶツアーで昨年度から継続しています。2 は改正省エネ法に関する会員向けのセミナー企画です。具体的な開催には至りませんが、次年度に向けた準備を整えました。3 は身近な視点で SDGs を考える企画です。9 月に法政大学建築学科の川久保先生にインタビューを行い、地域会連携企画第 1 回として 2 月に「地域から考える SDGs」を群馬地域会と共催で実施しました。

#### 12. アーバントリップ実行委員会 (委員長: 尾形光男)

アーバントリップ実行委員会では、今年度は 2 回の見学会をおこない、3 回目は新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の対策に伴い延期をしました。

今年度もテーマの一つとして、竣工年が新しい建築ばかりではなく、使い続けている建築にも目を向けています。

##### ■第 90 回アーバントリップ (終日徒歩)

日程: 2019 年 5 月 15 日

テーマ:「洗足学園音楽大学の特色ある建築群都市と建築—多彩な設計者が奏でる洗足学園キャンパス協奏曲」  
見学先: 洗足学園音楽大学 ①シルバーマウンテン、e-キューブ ②前田ホール ③アンサンブルシティ、ホワイトキャッスル ④ブラックホール、附属幼稚園

##### ■第 91 回アーバントリップ (終日徒歩)

日程: 2019 年 10 月 9 日

テーマ:「虎ノ門-赤坂を歩く-スモールオフィスから大型再開発オフィスまで」

見学先: ①赤坂インターシティ AIR ②虎ノ門ヒルズ ③荒川ビル ④赤坂センタービル

##### ■第 92 回アーバントリップ (終日バス)

日程: 2020 年 3 月 12 日 (延期)

テーマ:「日本のこころに遊ぶ」

見学先: ①東山旧岸邸 ②とらや工房 ③富士カントリークラブ ④かんなみ仏の里美術館

一般の方や設計者にとって、有意義な見学会になったと思います。

### 13. 建築セミナー実行委員会（委員長：小堀哲夫）

今年のテーマは昨年同様「Making Architecture Together-環境と人間-」として、受講生は20名、実行委員は委員長、ワーキングスタッフを含め9名、そして、例年通り8名のOBの助けを借りて運営した。年間を通してのプログラムは以下の通り、9プロジェクトで19講座とした。

0. 開講 | 公開講座 | 海外で風景をつくるデザインと振舞いの戦略～海外を拠点とする日本人若手建築家たちとその未来
1. 北九州と下関の近現代建築を巡る～レーモンドや磯崎の名作から梅光学院新校舎まで
2. 多世代のつながりを生む空間づくり
3. 2020年、東京五輪・パラリンピックの施設見学と木材活用
4. 土曜サロン～1970生まれの建築家の対談
5. コンピューターショナルデザインの未来形
6. 1970年代から現在を考える2
7. 世界遺産近く、長崎教会建築群を巡る
8. 中東の建築と、これを取り巻く状況を巡る

どの講座も担当の実行委員が企画したもので、出席率も高く充実していた。特に実物の建築を見ることで若手設計者達にとっては刺激的で熱心な見学会となった。特に、中東（ドバイ、アブダビ）の海外研修は、講座1.の講師の活躍を現地体験し、中東情報を肌で感じることができて、興味深い研修となった。

### 14. JIA トーク実行委員会（委員長：椎名英三）

1976年よりスタートしたJIAトークは、日新工業株式会社の協賛により、2019年度は第175回から第177回迄、3回開催されました。

開催日および出席者数は、第1回4月17日107名、第2回9月4日47名、第3回11月16日47名です。

第1回はノーベル賞候補とも言われている宇宙物理学者である小松英一郎氏による「宇宙の始まり、そして終わり」。宇宙マイクロ波背景放射の観測により導き出された宇宙の始まりとその終わりについて、たくさんのスライドと動画、そしてジョークを交えて楽しく解説していただき、宇宙への興味を駆り立てるトークとなりました。宇宙をテーマとしたJIAトークは初めてでした。

第2回は書家の中塚翠濤氏による「文字の旅」。実行委員の廣部が聞き役となって進行しました。書を始めたきっかけから、心が自由であるための旅や出会いについて話されました。最後に「書の実演」で中塚氏が書かれた文字は『一期一会』。書が、その時々の筆遣いによって変化することについて、まるで「飛行機雲のように毎回違ってくる」と表現されたように、自由で美しいパフォーマンスが披露されました。

第3回はワイズ・ワイズ社長の佐藤岳利氏。

「国産材に向き合って、未来の日本が幸せになる様な仕事を目指す」

自然資本は全ての人間活動の基底をなすものであり、これまでは搾取したものの勝ちだったがこれからは何を返しているのかを問われる。建築設計者として取り組まねばならないテーマであると感じました。

尚、通常は年間4回開催されますが、新型コロナウイルスによる感染拡大を危惧して、3月4日に開催を予定していた和紙作家 堀木エリ子氏のトークは中止され、次年度に延期されることになりました。

### 15. 学生デザイン実行委員会（委員長：松村哲志）

学生デザイン実行委員会では第28回東京都学生卒業設計コンクール2019を、5月18日(土)、5月19日(日)に開催しました。

コンクールに向け、月に1回程度、定例会を開催し、会場の選別や審査委員の選定などを行って参りました。

今年の会場は工学院大学新宿キャンパスアトリウムです。24大学5専門学校から55作品が一堂に会し、5月18日(土)には公開審査が行われ、審査過程を見ようと多くの来場者が集まりました。審査委員長には西沢立衛氏、副審査委員長に手塚由比氏、審査委員には羽鳥達也氏、斎藤精一氏、田根剛氏を迎えました。大変充実した議論の結果、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の10作品を選出して頂きました。学生のモチベーション向上を意図し広く評価を行う目的で始まった当委員会では選奨奨励賞には2作品を選出しました。12月末には作品集も完成し活動内容の情報発信を行っております。

また昨年度より行なっておりましたこれまでの作品集をまとめたアーカイブ作品集の製作、出版について、20年以上前のデータの調整など困難はありましたが完成、出版に至っております。今後、協力いただききた参加校への寄贈を進めるとともに、これまでの蓄積を発信し、さらなる発展に向けこれらの活用を本格化する準備を整える活動を行いました。

### 16. 大学院修士設計展実行委員会（委員長：日野雅司）

「大学院修士設計展」は第18回目を迎え、参加校・出展数とも昨年度と同程度があつまりました。2012年度よりWEB展を継続しつつ、図面と模型を展示する展覧会を開催し、建築家の単独審査による審査、講評を行うこととしています。また、展示作品と審査・講評、各大学の研究室紹介をおさめた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行されています。

しかし2019年度は新型コロナ感染症の影響により、展覧会および公開審査が中止となり、非公開による書類審査および選抜10人だけの発表審査を行い、受賞者を決定しました。例年とは違う急な審査過程の変更がありながらも、審査員・委員ともに臨機応変に対応した結果、学生達の不利益を最小限に抑えることができたのではないかと思います。この場を借りて関係者皆様へ御礼申し上げます。

次年度はぜひ通常開催にとどまらず、修士設計に対す

る各大学の取り組みを共有し、日本の大学院における建築教育のあり方に提言ができるような、シンポジウム等の開催も検討しており、より一層の発展を期したいと思います。

一次審査：2020年3月10日、二次審査：2020年3月19日、於：建築家会館 審査員：野沢正光氏 参加大学：24大学（27専攻） 出展数：43作品

#### 17. 交流委員会（委員長：河野剛陽）

昨年度の活動ですが、秋の大雨及び年度末の新型コロナウイルスの蔓延でいろいろなイベントが開催できなくなりました。特にフズガカップにつきましては、初の開催中止となりました。（10月の集中豪雨による順延に続き3月の開催中止）多くの正会員の方々に参加を予定していただいておりますが残念に思います。交流大会については、集会の自粛により、中止いたしました。同時開催のセミナーについては、時期は未定ですが、延期としております。

また、支部の委員会に協力会員が参加する件につきましては、昨年に引き続き3名の協力会員の方々に広報委員会に参加いただきました。正会員との交流も少しは進展できたと思います。その他地域会及び部会への参加についても、今後推進していきたいと思っております。

交流委員会のホームページは、支部ホームページに統合することになり、移転及びレイアウトに少し費用は掛かりましたが、更新しやすい形にできました。協力会員の名簿についても年一回の更新ではなく、できるだけタイムリーに更新できるようホームページの掲載のみとし、紙での配布を中止しました。

ただ、今年の2月以降の各グループ（業種別7グループ）のイベントにつきましては、ことごとく中止または、延期となっております。新年度にずれ込みますが、社会の状況を配慮し、今後継続していく予定です。

交流委員会では、JIAの活動に賛同いただける法人もしくは個人が協力会員として入会いただいております。より良い付き合いができるようご協力お願いいたします。

### IV. 部会活動報告

#### 1. デザイン部会（部会長：山本想太郎）

ゲストを招いた公開イベントを中心に活動を行っています。本年度も2020年3月に公開トークイベント「建築コンペとは何か」と予定しておりましたが、ウイルス感染症に対応した東京都の集会自粛要請により、延期としました。今後、ウイルス感染症の状況をみながら、日程の再設定を行う予定です。

当該イベントは、日本における建築コンペの問題点、新国立競技場コンペの再考察、そして新しいコンペ形式の可能性などをテーマとするものです。（予定パネラー（敬称略）：倉方俊輔（大阪市立大学准教授、JIA近畿支部副支部長）、真壁智治（プロジェクトプランナー、M. T. VISIONS）、山本想太郎（山本想太郎設計アトリ

エ、デザイン部会長）

部会ではこのテーマのイベントのシリーズ化をはじめとして、今後も不定期に、タイムリーなテーマのイベントを開催していく予定です。

#### 2. 都市デザイン部会（部会長：鈴木和貴）

主な部会活動は、1) 講演会やまち歩きを開催、2) 部会員によるショートレクチャーと活動報告、3) 研修旅行でした。

##### 1) 講演会やまち歩きの開催

・まち歩き+講演会：「隅田川の橋梁/歴史と文化と都市デザイン～再塗装された隅田川橋梁群・昨日・今日・明日～」の開催（講師；中野恒明氏、杉山朗子氏）まち歩きは両国駅から浅草文化観光センターへ主に隅田川沿いを歩き、塗装を終えた橋梁などを見学した。

2014年、隅田川の著名橋について歴史や文化を背景とした成り立ちや色彩も含めた都市デザインの観点でのシンポジウムを開催した。東京都の管理する橋梁の塗装工事が概ね完了しライトアップ工事が始まることから、都市景観における重要性や文化的な価値について、5年前のシンポジウムでの意見を踏まえ、その検証と将来像を模索する「まち歩き」と「講演会」を開催した。なお、5年前と同様、開催は城東地域会と共催し、一社 東京建築士会、都市環境デザイン会議、NPO 景観デザイン支援機構の後援をいただいた。

・講演会：「建築を超えて/環境そのものをデザインすること」の開催（講師；松浦寛樹氏）

オランダを中心に建築家、都市デザイナーとして活躍される松浦寛樹氏の一時帰国に合わせお話を伺う機会を作った。ヨーロッパで多くのプロジェクトを進め、建築、ランドスケープ、都市デザインの領域で幅広くデザイン活動を展開する氏の講演会。

・講演会：「商店街の再生とこれから/「昭和の町」商店街」の開催（講師；安藤 与一郎氏）

豊後高田市は、近世以降、海運を中心として繁栄し昭和30年代の国東半島での一番栄えた町であるが、その賑わいも昭和40年代を過ぎると徐々に衰退し、平成に入るとシャッター商店街と化してしまう。そこから商工会議所と店主の街の活性化に向けての努力が続いていく。約10年をかけて見つけ出したこの町の特色「昭和」をテーマに平成13年9月にスタートした

「昭和の町」は、商業と観光を結びつけて地域の再生に向かったもので、地域のアイデンティティを発掘し地道に将来を信じて活動を続けてきた結果でもある。安藤氏の所属する豊後高田観光まちづくり株式会社は彼らを支えたもう一方の復活の立役者であり、街の栄枯盛衰の全てを見て関わってきた。賑わいを取り戻した「昭和の町」商店街の、これからのさらなる発展に向けた取り組みも含めた講演。

・講演会：「南さつま市加世田麓麓伝統的建造物群保存地区について」の開催（講師；鯉坂徹氏）

加世田の旧鯉坂邸の今後の存続を含めた検討が端緒と

なり、地域の方達や行政、学識経験者などとの勉強会やまち歩きなどの活動を続けていく中で、同地区に残る明治期のいく棟かの建物が国の登録有形文化財の指定を受け、住民は地域の魅力を認識していくようになる。そして、2013年の鹿児島大学への赴任を契機に鯉坂氏の加世田での活動はより広範多岐にわたっていき、行政の条例の整備や都市計画決定も終え、伝建地区に選定されるに至った。講演では、地区内の住宅の改修を通しての地域での建築物の特色などについても解説され、伝建地区に住まうことの意義についても語られた。「今ある住環境をいかに守るかが目的」ということから「住み続ける権利として大切にしなければいけないもの」との提言は、改めて今の我々が住む街について考えさせられるものであった。

2) 部会員によるショートレクチャーと活動報告  
ショートレクチャーとスライドによる発表(夏編・冬編)

3) 研修旅行：10月26日～27日

長野県東信地区の、明治期以前から現代に至る重要建築物や、江戸期からの集落や修景地区を見学。  
軽井沢聖パウロカトリック教会→堀辰雄文学記念館→懐古園→歌舞伎舞台(東町、西宮)→しみず建築工房→別所温泉(泊)→安楽寺→中禅寺→前山寺→茂田井宿→台ヶ原宿→銀杏工房

### 3. 住宅部会(部会長：中村高淑)

住宅部会は設立44年を迎えました。協力会員を含めて80名を超える規模で日本建築家協会(JIA)の内外に向けて活発な活動を続けています。しかしながらその活動も住宅部会40周年記念の盛大な式典をピークに、近年は既存会員の高齢化による自然減、若手会員入会の減少、あるいは時代による変遷による社会構造の変化の波を受け、部会活動における参加人数や規模の面において減少傾向にあることは否めない状況です。そこで、従来の住宅理念や活動テーマ「持続可能な住まい」や「建築家の職能」を踏襲しつつ、ベテラン会員から中堅、若手、新人まで、部会活動の一層の充実や活性化を図ることを目的に、いくつかの新しい取り組みに着手いたしました。主な活動を下記に報告いたします。

■「住宅部会の理念」を一部改定(「住宅部会について」の項に“と持続可能な社会”を加筆)

住宅部会について

「建築物」は、建築主だけでなく、社会にとっても大切な資産です。住宅部会は、公益社団法人日本建築家協会(JIA)の理念に基づき、市民に最も身近な建築である「住宅」を通して、美しく住みやすい街と持続可能な社会、創造性豊かな住文化の構築に寄与することを目的としています。

■運営について

1) 住宅部会の日(勉強会、作品レビュー、見学会、講演会、作品展、納会など)

原則毎月1回、部会活動の日時と場所を設け、主に会員相互の研鑽、情報交換や交流を目的とした企画を開催しました。(一部の勉強会については一般参加も募集し、8名が参加)

2019年度は原則第三木曜日を活動の日とし、その他適宜イベントに応じた曜日や日時を設定しました。

□4月12-13日 米田横堀建築研究所 見学会 担当：米田雅夫、横堀将之

□4月20日(木) 拡大活動会議/住宅部会賞作品トーク/座談会 企画進行：中村高淑

第1部：拡大活動会議・座談会「部会の日企画」

第2部：「住宅部会賞作品トーク」記念品贈呈+セミナー+座談会

選考作品設計者：高安重一、田口知子、関本竜太、(片倉隆幸/スライド紹介)

選考委員：高橋隆博、渡辺武信(予定)、郡山貞子

□5月22日(木) 拡大活動会議「Webサイトリニューアル方針案の検討」ほか

担当：WebWG 飯沼竹一、伊波サチヨ

□6月20日(木) 勉強会「検査済証のない建物の増改築」 企画進行：高橋隆博

第1部 レクチャー「検査済証のない建物の増改築」  
講師：片田友昭氏(日本ERI 審査部・元品川区防災まちづくり事業部長)

第2部 実例紹介「IRIYA APARTMENT」(国土交通大臣賞)

講師：中西ヒロツグ(建築家・住宅部会正会員)

会費：部会員 無料、一般1,000円

□7月18日(木) 勉強会+座談会「失敗に学ぶ」

企画進行：田端友康

講師：奥 尉(ケンバイ WG、中原史陽(保険会社)、田辺 靖(建築家会館))

□8月22-23日 見学会 群馬 建築ツアー

8/22(木)～群馬の住宅訪問 +「群馬の森」地区の建築見学

下田邸→横堀邸→群馬県立近代美術館(磯崎新)にて昼食、他→米田横堀建築研究所→高崎松風園(米田横堀)→群馬音楽センター(レーモンド)→井上邸(レーモンド)→豊田屋旅館(有形文化財)にて懇親会+拡大活動会議

8/23(金)～富岡製糸場とその周辺のまち歩き

上州富岡駅(TNA)→富岡市役所・富岡倉庫(隈研吾)→富岡製糸場(世界遺産)→まち歩き→ときわ荘(有形文化財)にて昼食→富岡市社会教育観→貴前神社

□9月12日(木) 勉強会・温熱環境セミナー「気密断熱設計の落とし所(実践編)」

企画進行：中村高淑 講師：寺山実

□10月17日、18日、19日 JIA 建築家大会2019 青森 in HIROSAKI 参加

□11月21日(木) 新Webサイト試作発表会 +ヨーロッパ建築視察旅行 報告会

第一部 新Webサイト試作発表会 担当：WebWG 中

澤克秀、伊波サチヨ

第二部 ヨーロッパ建築視察旅行 報告会 担当：湯浅剛、新井かおり

□12月19日(木) 忘年会 + 拡大活動会議 + 座談会 + 新Webサイトお披露目、他

拡大活動会議：北欧建築旅行、住宅部会賞2019の募集などの告知

座談会：中村部会長、米田副部会長、高橋副部会長 + 会場

同窓会員(仮)の設置について、ほか意見交換

新Webサイトお披露目：WebWG 中澤克秀、伊波サチヨ

参加：39名 忘年会費：2,000円

□1月16日(木) > 島村邸+川口交差住居 +Luce. ヒカリノイエ体験見学会&懇親会

見学：島村邸、川口交差住居、ヒカリノイエ Luce.、Café+5 参加19名 参加費：1,000円

□2月20日(木)「住宅部会賞2019」公開選考会

応募：25作品 応募料金：2,000円 結果発表および表彰は総会・納会にて

□3月19日(木) 総会・納会・部会賞発表表彰 ※新型コロナウイルス感染拡大予防のため延期

2) 公益活動の日 (JIA 住宅市民講座 WG)

「持続可能な住まい」を共通のテーマに毎月セミナーを開催。昨年度に引き続き近年のすまいセミナー来場者数の減少や時代の変遷による会場側との認識のズレなどの問題を受けて、新たな活動のしかたやあり方を模索、現代にマッチする形で情報は発信のしかたをWGを中心に模索しました。今後も引き続き、これまでの取り組みを定着させることと並行しながら、新たな情報発信のしかたを検討したい考えです。

□SUMAI セミナー 建築家と考えるこだわりの住まいづくり(会場：LIXIL ショールーム東京)

5月25日(土) コーディネーター：郡山 毅 講師：中澤 克秀 / 宮島 亨

住まいをつくるときに考えておきたいこと ～間取りから地球のことまで～

6月22日(土) コーディネーター：宮島 亨 講師：片倉 隆幸 / 井上 玄

デザインが気持ちの良い住まいをつくる ～長く住み継がれる住まいとは～

8月24日(土) コーディネーター：中澤 克秀 講師：関本 竜太 / 堀内 雪

緑と共に暮らす ～成長する住まいと環境を考える～

10月19日(土) コーディネーター：新井かおり 講師：河内真菜 / 清水裕子

子育て世代の住まいづくり ～後悔しない住まいのポイント～

12月14日(土) コーディネーター：湯浅剛 講師：飯沼竹一 / 田端友康

人と地球に優しい住まい ～自然エネルギーと自然素材を活かす！～

02月29日(土) コーディネーター：高橋隆博 講師：

久保田恵子 / 岩田厚

30年で壊される家 vs. 住み継がれる家 ～建主以外にも魅力ある暮らしの器とは～

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

□建築家と考える住まいづくり(会場：新宿リビングデザインセンターOZONE)

6月15日(土) コーディネーター：下田 仁 / 講師(案)：横堀・大川

身近なものから遠くの景色まで ～住まいづくりに大切なものを探しませんか～

7月27日(土) コーディネーター：寺山実 / 講師：新井かおり・河内真菜

住まいの光を考えましょう ～光で空間を美しく、そして持続可能な環境～

9月28日(土) コーディネーター 片倉隆幸 / 講師 郡山毅・湯浅剛

緑と自然の取り込み方 ～内と外のつながりを考えた住まい～

11月30日(土) コーディネーター：大川直治 講師：関本竜太 / 高橋隆博

人生100年時代の住まいとは ～生活の変化に強い住まいづくり～

01月25日(土) コーディネーター：米田雅夫 講師：寺山実 / 中村雅子

メンテナンスを意識すれば未来が変わる ～長く住み続けるための意識と工夫～

03月28日(土) コーディネーター：中村高淑 講師：高安重一 / 田口知子

家族を超えた楽しい住まいづくり ～集まって住む新しい暮らしの提案～

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

3) 住宅部会賞 ※2018年度より新たに設立住宅作品を通じた部会員相互の研鑽や交流の活性化を目的に、部会の理念を具現化した住宅作品を顕彰。2019年度ではこの部会賞をきっかけに新たに6名(内再入会1名)が仲間に加わりました。

選考結果の発表は3月の総会+納会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため延期いたしました。

4) Webサイトの全面リニューアル 担当：飯沼竹一、中澤克秀、伊波サチヨ

12月19日より新しいWebサイトを公開、運営を開始しました。

費用については寄付4名、協力金を28名のかたから頂戴し、残りを活動費の繰越金から支払いました。

今後、次回リニューアルに備えて積み立てを開始することにしました。(詳細は会計報告にて)

次年度も引き続き同窓会員(仮)の掲載を始め、情報発信のツールとしてコンテンツの充実を図ります。

5) 研修旅行1 「太地・熊野ツアー」 担当：飯沼竹一、河内近、池上靖幸

見学対象：熊野古道センター、太地町集落、那智大社・

那智の滝、熊野本宮大社、熊野本宮館、なかへち美術館、ホテル川久、山長商店見学(山・工場)、南方熊楠顕彰館、新庄小学校

参加：中村高淑、中澤克秀、宮島亨、荒川幸子、田端友康、鹿志村弥、池上家+2名

現地協力：森岡茂夫(第24代部会長)、山長商店(榎本会長、坪井氏)、熊野本宮大社宮司、那智大社宮司、ホテル川久、レンガ職人 高山氏、ほか

#### 6) その他の活動

□活動会議 部会の日 企画の前後 15分程度開催

□全国住宅部会連絡会議 10月18日 建築家大会(弘前)にて

出席：中村、米田、高橋、中澤、北陸、九州を除く他支部、本部組織再編特別委員

#### 4. メンテナンス部会(部会長：柳下雅孝)

2017年度に作成した冊子「マンションの大規模修繕30年の軌跡」を踏まえ、2018年度から2年度に渡り、「マンションメンテナンス大会」と題したイベントセミナーを秋に開催し、大変多くの集客を得ることができました。さらに、今年度は新刊「マンションを100年以上使っていくために今やるべきこと～築50年時代のマンション再生～」を刊行することができました。この新刊がきっかけとなり、(公財)マンション管理センター主催の全国セミナーへの講師派遣や、地方公共団体、マンション管理組合団体など、全国規模での反響を得ることとなりました。

また、毎月定例のメンテナンス部会セミナーでは、これまで通り分譲マンションにおける耐震改修、設備改修、超高層マンションの大規模修繕など、部会員からの事例報告や外部講師を招いての改修技術の研鑽と啓蒙に努めてまいりました。

なお、大変残念な報告となりますが、30年以上途絶えることなく続けてきた毎月の定例セミナーですが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年3月度は中止せざるを得なくなったことを、あえて記載させていただきます。

#### 5. 住宅再生部会(部会長：岸崎孝弘)

例年に引き続き、座学のセミナーと街歩きなどのフィールドワークを行った。

住宅再生セミナーは5回実施し、薩田英男氏や香山研の長谷川氏など、著名建築家による住宅のみならず、公共施設の再生に関わる公演を実施し好評を博した。

フィールドワークとして三島市を訪問、三島大社はもちろん、皇族の住居であった楽寿園や、地元名士の古民家である龍泉院など、古拙や古民家を見学し、見識を広める活動を行なった。

自由に誰でもが参加出来るセミナーとしているため、多くの聴講者が集まり、毎回熱心な議論が行われた。昨年度から引き続きのテーマとして、空き家問題、超

高層マンションの問題など、職能としてのインスペクション制度などにも展開を広げており、勉強会や見学会から、人の輪を広げる展開を行った。

継続して既存木造住宅の耐震性能を向上させる工法・技術や環境にやさしいエコロジーについて学ぶ研究会をセミナーと同時進行形で行うことを実施しており、今後もこの活動を続け、住宅再生の実践も増やしていくことが大切と考えている。

#### 6. 情報開発部会(部会長：天神良久)

情報開発部会は法人協力会員Gグループと合同で、月に一回部会・勉強会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。講師をお呼びしたり、会員内から新情報を発表してもらったりしています。2019年度の勉強会では、「オフィス、設備管理におけるIoTの活用について」、「2019年5月東北地方の復興状況報告」、「建築設計プラットフォーム「i-ARM」について」、「自治体を起点としたデータエコシステムの形成に向けて」、「建設業界で利用されているBIMの最新情報」、「日常の空間で音を整える設計手法」等々を開催しました。

見学会では、10月にアーキトロン建築設計事務所を訪問して「計事務所のBIM活用」の現状を確認し、所長の脇守氏とのフリーディスカッションを行いました。また、12月にはビクターエンタテインメントを訪問して「ハイレゾ音響空間 KooNe(クーネ)」を体験して来ました。新会員は随時募集中です。JIA 関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載しています。ご興味の方はお気軽に部会・勉強会を覗いてください。

#### 7. 建築交流部会(部会長：観音克平)

##### 1) 定例部会

平成31年4月17日 総会、第1回定例部会、令和元年5月15日 第2回定例部会、6月19日 第3回定例部会、7月17日 第4回定例部会、8月21日 第5回定例部会、9月18日 第6回定例部会、10月9日 第7回定例部会、11月13日 第8回定例部会、12月18日 第9回定例部会、令和2年1月29日 第10回定例部会、2月5日 第11回定例部会、3月18日 第12回定例部会

##### 2) 見学・研究会等

4月10日 第1回スコラ美術会/建築交流部会臨時部会 15:00~21:00 JIA館5階C会議室

4月17日 第1回建築交流部会 18:30~21:00 JIA館1階建築家クラブ

19時ころから、世田谷区新庁舎建設問題、中野区平和の森小学校問題の報告会

4月24日 第19回スコラ「近代洋風建築研究会」/建築交流部会臨時部会 15:00~21:00 JIA館1階建築家クラブ

武蔵野美術大学教授の松葉一清氏にご登場いただきました。

氏は京都大学建築学科を卒業後、朝日新聞特別編集委員などを経て現職。

専門は近代建築・都市史。近代史の視点に基づき、21世紀の都市と建築

のあるべき姿を探求されています。『近代主義を超えて』、『帝都復興

せり！』、『バリの奇跡』等多数の著書があります。

また、氏は日本の演歌についての造詣が深く、弾き語りもされます。

今回、第2部では、特別に、氏の演歌をご披露いただきました。

第1部 16:00～17:30

「帝都復興～モダニズム興隆期の世界的視野のなかで」

第2部 17:45～18:45

「演歌の大正・昭和～市民のモダニズム」

演歌についての解説と松葉先生ご自身の弾き語りで演歌をご披露いただきました。

第3部 19:00～20:30 (21時閉館)

気軽なポットラック・パーティ(持ち寄り)

5月8日第2回スコラ美術会／建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館5階C会議室

分倍駅周辺整備後半と平和の森小学校) 関連の絵やロボコン模型などでお話しいたしました。(亀井)

5月15日第2回建築交流部会 18:30～21:00 JIA館1階建築家クラブ ワイン会打ち合わせ(最終)

5月22日第20回「近代洋風建築研究会」／建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館1階建築家クラブ

講師は新進気鋭の建築史家、日大教授の田所辰之助さんです。オーストリア、ドイツの近代建築を専門とされていますが、日本の近現代建築にも造詣が深く、大学での講義のほか執筆、講演など広く活躍されています。2部制で行いました。

5月24日(金)建築交流部会臨時部会 18:30～21:00 シュバリエ(第3回「三田・ワインと食事の会」)

6月19日(水)第3回家協会建築交流部会 18:30～21:00 JIA館1階建築家クラブ 秋の旅行会、等々打ち合わせ日程確認、7月1日～(ミケランジェロ会展)の件など

6月24日(月)近代洋風建築研究会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館1階建築家クラブ 各種建築ビデオ鑑賞(観音)

6月26日(水)第3回スコラ美術会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館5階A会議室 和紙の利用、裏彩色と美濃紙の活用(亀井)

吉田鉄郎のスケッチ画など(画像データ)鑑賞(観音)

7月16日(火)近代洋風建築研究会／家協会建築交流部会臨時部会 JIA館1階建築家クラブ 15:00～21:00

田島恭子さん:田島恭子さんはイギリス(エジンバラ)

に留学し、保存学を専攻していますが、今回は、赤坂

迎賓館の様式に影響したと思えるイギリスとアメリカの近代様式建築についてご紹介いただきました。

『英米の潮流と赤坂離宮—19世紀末から20世紀初頭の様式建築—』

第1部 16:00～17:15 イギリスの様式建築

第2部 17:30～18:45 アメリカの様式建築

7月17日(水)第4回家協会建築交流部会 18:30～21:00 JIA館5階A会議室

世田谷区庁舎の進捗

長崎・熊本の秋旅行打ち合わせ他

(軍艦島・出島・小浜温泉・熊本城・熊本美術館)

7月24日(水)第4回スコラ美術会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館1階建築家クラブ

1部:ミケランジェロ会他美術展の写真撮影

2部:(扇子絵・赤坂迎賓館・鹿のつもの、日比谷松本楼の話・ミケランジェロ展報告など)

8月14日(水)第5回スコラ美術会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館5階応接室

部会動画映像、パズリーニ映画鑑賞

8月21日(水)第5回家協会建築交流部会 18:30～21:00 JIA館5階A会議室

長崎・熊本の秋旅行打ち合わせ他

(軍艦島・出島・小浜温泉・熊本城・熊本美術館)

府中分倍河原の進捗

8月27日(火)近代洋風建築研究会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館1階建築家クラブ

講師:東海大学名誉教授(フランス建築)羽生修二さん フランスの様式建築ノートルダム寺院建設の経緯。ノートルダム寺院からフランスの近代建築生産過程をお話しいただきました。

9月18日(水)第6回家協会建築交流部会 18:30～21:00 JIA館5階A会議室

秋旅行の打ち合わせ他

9月25日(水)近代洋風建築研究会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 JIA館1階建築家クラブ

10月9日(水)第6回スコラ美術会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～18:00 A会議室

10月9日(水)第7回家協会建築交流部会 18:30～21:00 建築家クラブ

10月16日(水)近代洋風建築研究会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 A会議室

11月7日(木)～9日(土)長崎～軍艦島～熊本の旅

11月13日(水)第7回スコラ美術会／家協会建築交流部会臨時部会 15:00～18:00 5階応接室

11月13日(水)第8回家協会建築交流部会(報告)

18:30～21:00 建築家クラブ

①12月18日は、旅行会報告会、忘年会を兼ねる。

②イベントHP等の件、ブルティン掲載の件

秋旅行のHP用の記録は整理中。

ブルティンの春号掲載(報告ではなく読み物にまとめるとのこと)について、木村さんに執筆を依頼。

③新年の日程を事務局と調整中。(第2、第3水曜を中

心に)

④ 第24回池袋平喜屋有料試飲会 11月20日～22日 (15時～20時半)

⑤ 中野たてもの応援団 (アトリエ展 11月13～17日、中野八洲ビル1階ロビー10時～)

⑥ 三田シュバリエ (出席者調整)

11月20日 (水) 第8回スコラ美術会/家協会建築交流部会臨時部会 18:30～21:00 建築家クラブ ※部会長休 (国立市の会合)

11月27日 (水) 近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 A会議室

第1部 15:30～17:00 ハプスブルク家とヨーロッパの王室 (佐藤)

第2部 17:15～18:45 ヨーロッパの王宮、教会 (中島) 佐藤祐子さんと、後半は再登場が熱く期待されていた中島智幸さん

(工学院大学教授: 西洋建築史)

情報交換 19:00～20:30 自由発表+懇親会。

12月11日 (水) 15:00～21:00 近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会 建築家クラブ

第1部 15:30～17:15 は平賀あまなさん (東工大) の講演、第2部 17:30～19:15 は建築交流部会の忘年・クリスマスパーティ

12月18日 (水) 第9回スコラ美術会/家協会建築交流部会臨時部会 15:00～21:00 A会議室

観音さん (21日のリハーサル・吉田鉄郎)

吉祥寺のギャラリー永田の件他、(他グループの関係者・未定を交えて懇談)。

2025年の万博会場等で実装あるいは実証する「未来社会 (SDGs 達成+Society (5.0等の実現))」のアイデアについて広く提案を募集。

12月18日 (水) 第9回家協会建築交流部会 18:30～21:00 建築家クラブ 忘年研究集会

12月20日 (金) 家協会建築交流部会臨時部会 18:30～21:00 シュバリエ (第4回「三田・ワインと食事の会」) (出席者) (中田、浅野、小倉、木村、亀井、観音、大沢、) (観音、西、須賀、森下)

令和2年1月22日 (水) 15:00～21:00 建築家クラブ 第10回スコラ美術会/家協会建築交流部会臨時部会

SDGsが次代のデザインをいかに拓くのか

NTT ファシリティーズプリンシパルアーキテクト 横田昌幸

現代建築都市研究者 川向正人

南木 政博 (NTT ファシリティーズ首都圏事業本部 建築技術部 担当課長)

伊藤 秀憲 (NTT ファシリティーズカスタマーソリューション部 街づくり推進部 課長)

のご出席をいただきました。

SDGsについて、横田様からたいへんわかりやすいレクチャーをいただき、意見交換ができました。

2部には中田さんがお見えになり、

これまた大変密度の濃い懇親会となりました。

1月29日 (水) 18:30～21:00 建築家クラブ 第10回家協会建築交流部会

2月5日 (水) 18:30～21:00 建築家クラブ 第11回家協会建築交流部会 中止

2月 第11回スコラ美術会/家協会建築交流部会臨時部会 休み

2月26日 (水) 15:00～21:00 建築家クラブ 近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会 (11回の振り替えとして、小テーブルにて開催)

3月18日 (水) 18:30～21:00 建築家クラブ 第12回家協会建築交流部会

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

3月 第12回スコラ美術会/家協会建築交流部会臨時部会 休み

3月25日 (水) 15:00～21:00 建築家クラブ 近代洋風建築研究会/家協会建築交流部会臨時部会 パリ旅行報告試写会 (10名ほどの参加) 旅行参加者想い出を語る。

## 8. 建築家写真倶楽部 (部会長: 兼松 一郎)

連日・晴天に恵まれている2月の一時、想いを馳せる此の寄稿に、時が経るのが何とも早い!と内心、どうしたことか (我が歳のせい一所為一か!)と、考え込む。ことにこの倶楽部の創設に関与し、様々な想いを共有したJIAの仲間・建築家連とのやり取りを想い起し、新宿の事務所を閉じ、海老名市 (神奈川県) の自宅にて起稿していると、ついつい瞑目 (私事ですが…)してしまふ。

振り返ると、2019年7月5日 (金)・銀座「歌舞伎座」の前にて集合。銀座の郊外、そして並木通りをブラ歩きしながら写真を撮り、`ライオン: サッポロビヤホール`で一杯を酌み交わしながら、長い年月を共にした諸々話を楽しみ、後日 JIA 会館で展示 (写真展) をした。

名残惜しいが、この夏の日を持って JIA で唯一存在したこの撮った写真をベースに JIA の会館で展示をしたり、建築談議 (写真の詮索なども) を慈しんだこの建築家写真倶楽部を閉じ、半年を経て様々な想いが湧いてくる。起稿している我が家・4階の窓から、上記昨年夏、撮った写真をセレクトしながら、蟬の声が聞こえてきたことに思いを馳せたりしている。

## 9. 再生部会 (部会長: 大橋 智子)

再生部会は、歴史的に価値のある既存建築物を使い続けるための活動を継続しています。毎月約20名のコアメンバーを中心に、関東甲信越支部以外の会員も参加して、定例会を開催しています。2019年度も毎月の例会の他、見学会、シンポジウム、セミナーを開催しました。

■見学会/7月『近三ビルディング』 (村野藤吾設計)

見学 ■シンポジウム/10月 JIA弘前大会 「建物を

使い続けるため」【パネリスト】渡邊 研司 東海大学教授・DOCOMOMO Japan代表・鯨坂 徹 鹿児島大学教授・山本大輔 島根県職員【モデレーター】大橋智子 JIA再生部会 部会長 開催 ■セミナー/7月 「都市計画・都市デザインは歴史的建造物を救うことができるか〜横浜の歴史を生かしたまちづくり その成果と課題」【講師】鈴木伸治 ■活動/4月「【白日荘】(旧平岩米吉邸)見学のお願い」提出/7月 都城市民会館調査協力

#### 10. ミケランジェロ会 (部会長：阿部一尋)

スケッチ会を目黒自然教育園と庭園美術館(旧朝香宮邸)にて春4月20日と、御茶ノ水界限(ニコライ堂、湯島聖堂等)を秋11月16日の2回行った。アーキテクトガーデン参加企画として、展覧会を前年までの銀座から、新しく渋谷区文化総合センター内ギャラリー大和田(渋谷区桜丘町)で7月1日から7日までの1週間展示した。水彩画13点、油彩画7点、エッチング4点、ガッシュ3点、陶彩2点、レリーフ1点、写真3点、が部会員9人から出品された。今年度から会場当番を決めて、来場者との交流も図られた。

#### 11. 金曜の会 (部会長：久保田恵子)

金曜の会は、建築家クラブの活性化を目的とし、毎月1回トークイベントを開催しています。

建築家会館のクラブ・バーは、開設当時、前川國男等と語りあえる場、各分野の方々との交流の場として、とても賑わっていましたが、一度は閉鎖、2008年前川國男が提唱された「処士横議の場」の復活を目指し、クラブ・バーの再開、建築家クラブが併設されたと聞いております。

現在、金曜の会では、“建築”をキーワードに、JIAの会員のみならず、学生、一般の皆様と共に、学び・楽しみ・語り合えるサロンとしての活動を行っています。

2019年度は、JIA日本建築大賞など受賞された建築家、ベテラン・若手の建築家、左官・庭園・テキスタイルの方々計10回のトークイベントに加え建築見学会を開催しました。各回トーク終了後の会場でのワインや軽食を囲んでの懇親会は、講師と参加者との語りや、参加者同士で親睦を図る光景が広がっております。

「金曜の会」から質の高い情報を提供できるようブログによる講演撮影も行っています。

また、貴重なお話をきちんと残すこと、JIAや建築家クラブ・その活動を一般の方へ2015年に開催した香山壽夫氏の6回連続講座を書籍化することとなり、制作進行中です。

#### 12. 学芸祭部会 (部会長：大川宗治)

学芸祭部会は、協力会員も含めたJIA会員同士の交流という目的のもとに活動しております。今年度は、

新年の集いに置いてのピアノによるBGM演奏の他、JIA弘前大会のバンドパーティーにて演奏し、他の支部を含めた会員同士の交流を図りました。

## V. 地域活動報告

### 1. 神奈川地域会 (代表：小泉雅生)

今年度の神奈川地域会では、前年度に引き続き「サステナビリティを考える」をテーマに掲げています。本年度はサステナブルという言葉、環境配慮に留まらず、まちや社会の持続可能性という分野に拡げて、幅広く活動を行ってきました。例年通り、研究会やイベントが中心となりましたが、若手活動の展覧会への出展や見学ツアーの企画といった新たな試みにも取り組んでいます。

6月には公共空間のあり方を考える「フューチャースケープ展」に若手の会員を中心に出品いたしました。仮設ではありますが、協力会からの協力を得ながら実大のモデルを建設することができ、JIA神奈川の大きな可能性が示されたのではないかと思います。

9月には、1泊の旅で、静岡方面への建築ツアーを企画しました。会員相互、会員と協力会の親睦にとどまらず、協力会の方々に技術的な解説をしていただくなど、技術研修としても有効だったのではないかと思います。今後もぜひ継続できればと思います。

定例的な研究会・イベント活動としては、昨年同様に学校建築にフォーカスした研究会、フォーラムを開催しました。7月には川崎市立小杉小学校の見学会を開き、設計にあたった梓設計の担当者による案内の後、発注サイドの行政担当者を含めた議論を行いました。

11月の建築フォーラムでは、「地域とともにある学校」をテーマとして、教育の専門家、地域活動の実践者、建築計画学者を招き、シンポジウムを開催しました。これらの研究会活動を通じて、サステナブルな社会における学校建築の一端が見えてきたように思います。

2月の建築祭では、「サステナブルで豊かな暮らしに向けて」と題して、例年通り二つのシンポジウム、茶室コンペ、近代建築まち歩き、デザインレビュー、展示など、まちのサステナビリティに関わる種々の企画を行いました。コロナウィルスの感染拡大に伴い、残念ながら延期を余儀なくされました。そのような状況下ではありましたが、卒業設計コンクールは、審査員の方々の協力もあり、非公開での審査を経て、連年通り授賞することができました。参加された学生さんへ大いなる励みになったことと思います。

建築祭の再開時期は未定ですが、時期を見て部分的にでも実行できればと思っています。なお、これらの本年度の活動に対して、(一財)神奈川建築安全協会からの助成、総合資格学院からの協賛などのサポートをいただきました。

また、例年通り、建築相談室、子ども空間ワークショップの開催など、一般への建築文化の普及・周知活

動にも取り組みました。他、建築職能に関わる活動として、包括連携協定を結んでいる横浜市建築局と、設計業務の進め方についての意見交換を2度ほど行いました。

あらためて振り返るに、協力会との連携強化がはかれ、多彩な活動が繰り広げられた一年でした。これもひとえに役員を始めとする会員の方々、協力会の方々の尽力のおかげです。この場を借りて、感謝したいと思います。

最後に、組織運営上のサステナビリティについてですが、新年度より事務局メンバーが代替わりをする予定です。しかし、役員メンバー更新には、依然として課題が残ります。サステナブルな組織の構築にむけて、少しずつ歩んでいければと思っています。

## 2. 千葉地域会 (代表：榎本雅夫)

### ■第17回百科講習会 (8月23日)

「県産木材まるごと建築百科」と題し、県森林課と県森林組合による基調講演、法人協力会による技術情報を提供していただいた。建築材としての活用ノウハウにとどまらず、地元資源のより積極的な需要開拓、そのために有効な「千産千消」ネットワークについて考える機会となった。毎年開催するこの講演会は、千葉県の後援により行政との連携を図りながら、幅広い視点から会員や市民のニーズに沿ったテーマを選定している。

### ■新年リレートーク (1月23日)

地元で活躍し、千葉県建築文化賞を最近受賞された若手建築家、牧野嶋彩子さんと田邊曜さんに近作の解説と建築づくりへの思いを語っていただいた。新鮮さと同時に、建築が単なる物ではなく、人・社会と関わりながら環境をつくっていることが改めて感じられた。

### ■第32回千葉県建築学生賞 (3月14～15日)

県内大学の卒業設計と工業高校の作品を展示し、公開審査を経て表彰を行うもので、JIA 全国卒業設計コンクールへの出展作品も選定している。建築設計という共通のフィールドで、建築家と学生が世代を超えて交流する場となっている。ショッピングモールを会場にすることで一般市民の関心も高めている。

今回は新型コロナウイルスの影響を受けて、従来のオーディエンスを入れた公開審査と表彰式は中止となったが、審査過程を YOUTUBE で生配信するというアイデアは、今後に生きる面白い試みであったと感じる。

### ■「千葉の森林再生プロジェクト」

台風災害を受けた君津地区の倒木現場見学及び説明会を2月20日に行った。今後の主たる行事として、倒木流通会、木構造セミナー、木づかいシンポジウム＋コンペティションを千葉県や森林組合、友好団体等とともに企画している。建築材料として木への関心を高めるだけではなく、森林再生や林業のあり方に視点を広げる活動を目指している。

## 3. 埼玉地域会 (会長：村田行庸)

4/13～16 第19回卒業設計コンクール展にて埼玉建築設計監理協会主催イベント共催実施。JIA 埼玉賞を選出し、全国大会へ出展作品を3作品推薦。

8/3 下落合コミュニティセンターより「夏休み学びの広場(工作コース)」の講師依頼。「強くて美しい橋を作ろう」というテーマで小学生20名程度が参加。各チーム毎にダンボールで橋をデザイン、製作してもらい、渡ってもらった。

8/9 月例会イベント BIM による設計手法 実務とのおして見えてきたこと 説明担当：村田 大宮のアイ設計に集まり事務所の様子、仕事の進め方について意見交換をおこなった。

10/12・13 空間デザインWG + ヒアシンスハウスの会周年事業 の開催予定であったが、台風19号の影響により屋外イベントの中止。13日午後にはヒアシンスハウス夢まつりを開催し多くの方が集まった。

11/3 月例会イベント 本庄祇園祭と街をたのしもう 説明担当：戸谷 祇園祭の日に合わせ、祭り、街歩きを楽しみ、戸谷正夫建築設計事務所にて事務所の仕事について説明を聞き、夜は懇親を深めた。

1/21 月例会イベント 古民家改修見学ツアー 説明担当：寺山 旧尾形家住居を教育委員会の方に案内していただき、寺山氏設計の古民家を改修し、熱環境を改善させた南房総の家を見学、体感した。

1/25～3/28 さいたま国際芸術祭 2020 プレイメント さいたまアートアクション展に出展。4月4・5日で行う空間づくりイベントで使う、紙管とジョイントの模型、パネルの展示を行った。

この他、定例事業として建築相談を毎月大宮・川越で開催。その他 SMF、新木場倶楽部、ヒアシンスハウスの会との連携を行った。

本年は役員会の在り方の見直し、月例会イベントの開催について話し合いを進めてきた。引き続き、会員が楽しめる事業やイベントを企画し、他団体との共同体制もとっていくことで考えていきたい。

## 4. 茨城地域会 (会長：根本洋一朗)

### 1. 総会の開催

茨城地域会会則第9条2項により2019年4月19日に茨城地域会総会を催し、2018年度事業報告及び決算、2019年度活動計画及び予算についてご承認いただきました。

### 2. 例会の開催

事業の内容・予算・進捗状況の確認及び会員相互の情報交換・親睦を目的として10回の例会を開催しました。

### 3. 茨城県消費生活センター建築相談への協力

茨城地域会では毎年茨城県消費生活センターの依頼により相談員を派遣し建築相談に協力しておりますが、本年度も計12回の建築相談業務に会員を派遣し、また、現地での調査を2回実施しました。

#### 4. 会員作品展開催

中心商店街の活性化と J I A の P R 及び会員の皆様の研鑽を目的として、2020 年 2 月 23 日から 3 月 2 日まで第 13 回となる会員作品展を開催しました。2 月 24 日には、みかんぐみ共同代表の竹内昌義氏を招聘しギャラリートークを開催しました。ギャラリートークには例年多くの市民の皆さんにご参加いただいておりますが、本年は新型コロナウイルスの拡大防止に配慮し、J I A 会員と一部の学生のみでの参加としました。

#### 5. 民家と町並みウォッチングの開催

日本建築学会関東支部茨城支所と共催で 2019 年 11 月 30 日に東京の旧山口萬吉邸とパレスサイドビルをめぐる「民家と町並みウォッチング」を実施しました。

#### 6. 海外研修例会の開催

茨城地域会では 2 年ごとに海外での研修例会を開催しておりますが、本年は 11 月にベトナム ハノイにて海外研修例会を開催しました。今回は 2 年前のニューヨークに続き 4 度目の海外研修例会でしたが、異国の違った文化の中に身を置き、その場所の人々の生活を見るのは毎回大変刺激になります。

#### 7. 建築文化講演会

日本建築学会関東支部茨城支所と共催で、建築文化の創造と発展に貢献することを目的として、多くの市民の皆様にもご参加いただき、「建築文化講演会」の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し延期としました。

#### 8. (一社) 茨城県建築士事務所協会主催の茨城建築学生賞への協力

「茨城建築学生賞」は (一社) 茨城県建築士事務所協会が建築文化の向上と発展に努め、公共の福祉の増進ひいては地域文化の活性化に寄与することを目指し、県内に建築系学科を有する学校各位と連携のもと、優秀な作品を表彰し、学生諸君にエールを贈ると共に、学生たちの交流を深め、建築設計業界が社会に貢献するための下地作りを目的として開催しました。茨城地域会では 2019 年も J I A 茨城地域会賞を設け「茨城建築学生賞」に協力しました。

#### 5. 栃木地域会 (代表：阿久津新平)

栃木地域会は地域に根差したまちづくり活動、一般市民との交流会「まち歩き、建築見学会」、建築・まちづくりなどを学ぶ学生との勉強会「スクール in 栃木」をメインに活動をしている。

#### ■「第 26 回スクール in 栃木」(令和元年 6 月 2 日開催)

日光市は旧日光庁舎前の広場(30m×60m)の整備事業を進めており、基本設計が完了し、市民の意見をまとめていた。栃木地域会は日光東町まちづくり推進委員会を通して県内で建築・まちづくり・芸術・美術を学ぶ学生による「コトづくりワークショップ」の開催を日光市に要望し、実施した。参加学生は 4 大学 1 専門学校の 27 名でした。

ワークショップの成果は日光東町づくり推進委員会の意見として市に提出し、おおむね採用されて実施設計が進められている。

#### ■「まち歩き、建築見学会」(令和元年 11 月 30 日開催)

「大谷石とアートを巡る」と題して大谷石研究会と共催で大谷地区にアトリエ、工房を構え活躍している 3 名の作家と登録文化財の小野口家住宅を訪問し、お話を伺う見学会を開催した。市民を含め 17 名の参加があった。旧帝国ホテルの明治村移築に係った大谷石作家渡辺哲夫氏の工房では新帝国ホテルに収めた作品のレプリカを見ながら石の仕上げの種類や県内に産する石の特徴など興味深い講話を聴いた。織物作家の渡辺恵美子氏は古い着物を裁断して作る「裂き織り」の現代アート作家で、展示されている作品を見学し、DVD で作品作りの工程を学んだ。陶芸作家の谷口有三氏の工房では、作品の解説を聞き、新しい陶器制作の研究についての話を聞いた。参加者は作家から生の話を聞くことが出来深い感動を受けたようでした。

#### ■「北関東甲信越学生課題設計コンクール」は残念ながら新型コロナウイルス感染問題で中止となる。

■「第 36 回栃木クラブ賞」(令和 2 年 3 月 22 日開催)卒業設計コンクールです。例年は卒業作品を 1 週間展示し、JIA 会員の特別招待審員と県内の若手建築家を審査員に招待し、公開審査を行って来ました。本年は新型コロナウイルス感染問題で、規模を縮小し、作品は当日持ち込みにし、県内の会員による審査会でグラプリを決定した。

#### 6. 群馬地域会 (代表：小林光義)

●『会員にとって ”期待と魅力” ある地域会！』というスローガンのもと自身研鑽のための学び場として『GA トーク』を開催しました。

(GA とは GUNMA ARCHITECT の略です)

#### 第 1 回「資格制度」 6 月 13 日開催

米田雅夫氏から会員減の一途をたどる登録建築家制度について～登録建築家制度を再考～と題し講演そしてグループディスカッション、『登録を認定とか公認とかに改名すべき』等が叫ばれる。

#### 第 2 回「上州の仕事南牧栲石」 8 月 2 日開催

南牧村の青木石材店代表 青木清二氏案内のもと石切り場の見学から石そのものの特性そして加工術について指導を受ける。そして石の可能性についてディスカッションを行った。

#### 第 3 回「旧松井田庁舎について考える」11 月 16 日開催

NPO 法人碓氷峠歴史文化遺産研究会代表理事 萩原豊彦氏より松井田庁舎建設時のエピソードについて講義をうける。今後この庁舎の活用についてどう運動していくかをカッションした。

#### 第 4 回「地域から考える SDG s」2 月 22 日開催 (環境

委員会合同開催)

法政大学デザイン工学部建築学科准教授 川久保俊氏の登壇そして事例を新井かおり氏と横堀将之から報告、その後トークセッションをおこなう。群馬県から4名、他自治体からの参加もあり SDGs への取組や課題を行政と民間で共有できた。群馬地域会としては『SDGs の考え方を発信し共に取り組むことそのものが SDGs』との結論に至る。

「みんなで一緒に考えよう」を主軸にその内容は建築設計を生業とする者同士がそれぞれブレインストーミング、結論に到達しないまでも、日常の様々な場面で発想のヒントとなり、更なる成果に結びつくことに期待が持つことができたと思います。

●11月16日には恒例となっている『建築学校』と称した研鑽事業をブルーノタウトゆかりの少林山達磨寺で開催しました。

座禅：住職講和を通し無と向き合う

第3回GAトーク同時開催

体験：洗心亭にてお茶会 等々を行いました。

●また今年度は2回街歩きを開催

第1回目は、信越線沿線建築まちあるき～松井田宿～ 9月21日

第2回目は、信越線沿線建築まちあるき～安中宿～ 1月18日

●恒例事業となった『まちなか建築展』を3月13日から3日間そして建築シンポジウム～畑の中のパルテノン旧松井田町役場について～を予定していたが武漢肺炎ウィルスの影響で無期延期となってしまった。

●3月28日には坂牛卓氏による特別講演会「建築の設計力」を開催予定であったが同ウィルスの影響で中止、合わせて翌日の第23回 JIA 群馬クラブ学生卒業設計コンクール 2020 (支部事業である第14回 JIA 北関東甲信越学生課題設計コンクール 2020 との同時開催)も中止となってしまった。

## 7. 山梨地域会 (会長：奥村一利)

山梨地域会の本年度の活動を簡単に報告します。

### ■見学会

○堀田古城園 (アルケドアティス 網野隆明設計) 甲府市登録文化財を見学した。

### ■他団体との交流

○上野原市が主催する「桂川フェスティバル」に参加。

○建築士会が主催する「山梨県庁別館 (県指定文化財) 見学会」に参加、協賛。甲府工業高校建築科の高校生を招き見学会及び授業を行った。

■「山梨県高校卒業設計コンクール」参加、賞状とトロフィーの授与を行った。

■「北関東甲信越課題設計コンクール 2020」参加、コロナウィルス対策のため非公開となった。

## 8. 長野地域会 (代表：荒井洋)

今年度は行政や一般市民との交流、会員間の交流を活

発にして会の活性化を図り地域社会から信頼される団体を目指して、5つの委員会と一つのWGを作り活動をしてきました。昨年度同様、活動に影響を与えない範囲で経費削減に努めつつ以下の6つの活動方針の下に事業を行いました。

1. 地域と連携し、地域に貢献する JIA 活動を目指す
2. 公益法人としての良質な情報発信の強化を図る
3. 魅力的な事業の展開とコンパクトなクラブ運営を心がける
4. 会員の資質向上と業務環境の改善を図る
5. 会員間の交流促進と新会員の増強を図る
6. 地域会・支部及び他会との積極的な交流を図る

・広報誌「建築家通信」を年2回発行し会員に必要な情報はHPに掲載しました。A4一枚の建築家通信となりましたが一ページ目には長野県クラブ外の方に寄稿していただくなど公益性を高めるよう努めました。

・会員間の交流を図るため「仕事を語る会」を開催しました。JIA 長野県クラブ会員が自らの仕事を発表する場で質問自由のフリートーク形式です。座学と現地見学 (協力会員会社) の二本立てで行われました。協力会員の参加も増え、少しずつ交流が深まりつつあります。

・県産材を中心とした地場産業活性化への積極的な参加と人的交流を図るため「地域材を語ろう」を開催しました。長野県や市町村の担当者、林業関係者、正会員、協力会員から毎回多数の人が集まってくれました。行政間の横のつながりが活発になったことが大きな成果です。

・夏のセミナーは、まちづくり委員会の「地域材を語ろう」の拡大版として中国木材鹿島工場の見学を行いました。途中、佐原の街並みを見学した後中国木材の工場を見学し、大洗ホテルにて納涼会を行いました。帰り道では真壁の街並みを見学しましたが単体の建築見学も数多く、大変ハードな夏のセミナーとなりました。

・冬のセミナーは諏訪で開催されました。恒例のウォッチングは諏訪大社下社秋宮周辺。その後ホテル布半に会場を移し民法改正に伴う勉強会を行いました。講師に弁護士の河嶋恒平さんと高橋重徳相談役を迎え『民法改正を新たなチャンスに！』という内容の講演と勉強会を開催しましたが大変難しい問題で今後も継続して勉強していく必要性を感じました。その後の忘年会には多数の会員に参加いただき大いに盛り上がりました。

・長野地域会最大の行事 第14回建築祭が2月22日、23日に開催されました。今年は会場が2ヶ所に分かれており一日目の第28回文化講演会は講師に福島加津也さんをお迎えし「工学と美学」という演題で、まつもと市民芸術館において、二日目の第29回長野県学生卒業設計コンクールは松本市美術館において開催されました。同時に長野県学生卒業設計展を二日間に渡り開催しましたが今年も期間中ギャラリートークを行

いました。JIA 長野県クラブの建築家 3 人が独自の視点で大学生の作品を読み解いていこうという企画で一般人も対象としています。今年も学生や JIA 会員が沢山集まり盛況でした。卒業設計コンクールは審査委員長：福島加津也、審査員：小川稔、渡邊大海、小林光義、荒井洋の計 5 名の審査で行われました。大学 11 作品、専門学校 12 作品、高校 20 作品、計 43 作品が出品されましたが全体的にレベルがアップしており賞を決するのが大変でした。

・台風 19 号が東北信に甚大な被害をもたらしました。災害対策 WG が中心となり建築他団体と共同して被災住宅の調査および住宅相談を行いました。

その他にも以下の活動を行いました

- ・ JIA 本部・支部総会への参加
- ・「工芸の五月」のプログラム『建築家と巡る城下町みずのタイムトラベル』の企画と案内
- ・信州大学建築科建築・デザイン工学 設計製図Ⅲ 最終好評会への参加
- ・“信州の木” 建築賞への審査員派遣
- ・ まちづくりフィールドワーク～ソヤノウッドパーク工場見学
- ・上田情報ビジネス専門学校の出前講座への講師派遣『ものづくりの楽しさを伝える雑学講座』～別所温泉 まちなみウォッチング (安藤政英氏の案内)
- ・飯田下栗のまちなみウォッチング (新井優氏の案内)
- ・全国学生卒業設計コンクールへの協力

## 9. 新潟地域会 (代表：平原茂)

当地域会では例年三つのイベントを中心に活動を行っています。

一つは秋に行われてきた建築セミナーです。当初は一般市民に建築家とはどんな職能なのか知ってもらうためのイベントでしたが近年は学生や若手設計者を対象に、国内外で活躍する建築家を招き自作を紹介してもらう企画です。今回は環境問題に力を入れている彦根アンドレア女史を招き 11 月に開催しました。120 名ほど集まりましたが、市外から普通科の高校生が参加してくれたことに感激しました。

二つ目は毎年 2 月に開催している県内学生課題設計コンクールです。住宅系の学内の課題作品を県内の大学、専門学校、高校に呼びかけ 7 校から 19 作品の応募がありました。大学の教室を借りて作品を展示し参加学生の前で我々 JIA 会員が講評するイベントです。入賞作品を 3 月に行われる北関東課題設計コンクールに送り出す予選会の役割も担っています。学校間の交流や、学生と JIA 会員との交流の場を提供できました。

三つ目は 3 月の県内大学卒業設計コンクールです。例年 3 大学、1 職能短大の参加の公開審査で盛り上がるのですが、新型コロナウイルスの影響で 5 月に延期となりました。WEB 審査で予定の期日に実行とも考えましたが公開審査を前提に 2 か月の延期を決めました。会場の手配や審査員の日程の調整など実行委員にはご

苦労を掛けています。

毎月の定例会でのレクチャーも活発になってきました。会員の作品発表や協力会員の商品の開発の苦労話など多岐に渡っています。作品発表を通じて会員同士の理解も深まったと感じています。そんな流れから秋に会員有志による企画で、住宅作品展が協力会員のショールームで開催されました。システムキッチンのショールームに来た一般客に対して JIA の建築家をアピールできました。

## 10. 中野地域会 (代表：白江龍三)

1. 地域の建築文化向上を長期的視野で模索する活動—中野サンプラザを含む中野駅北口駅前エリア再整備に関して (専門家の立場から提言・要望・陳情等の意見表明)

TAAF (東京都建築士事務所協会中野支部) と共に、区の中野駅周辺計画担当と意見交換 (昨年に続き 4 月 17 日、8 月 28 日、11 月 20 日)。

TAAF と連名で、4 月 17 日に区の所轄へ「中野駅新北口駅前エリア再整備の今後の事業展開への提案」、8 月 22 日に区議会議長へ要望書「中野駅新北口駅前エリア再整備の今後の事業展開への提案」、同 27 日に区長らへ「中野駅新北口エリア再整備 民間事業者公募プロポーザルの募集要項に関する要望書」、11 月 8 日に区議会へ陳情書「中野駅新北口駅前エリア再整備における民間事業者公募プロポーザルの募集要項について」、2 月 26 日に区と区議会へ「中野駅新北口駅前エリア拠点施設整備 民間事業者募集要項への追加・修正事項に関する要望書」を、それぞれ提出。12 月 10 日に陳情は区議会本会議で採択され、二会連名でプレスリリース投函。

また JIA 単独で、11 月 20 日に『「中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画 (素案)」への JIA 意見』、1 月 7 日に「中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画 (案)」へのパブリックコメント意見をそれぞれ提出。12 月 10 日、区長に SDG s 建築ガイド日本版を贈呈。また、地域会代表が 7 月 26 日、区役所・サンプラザ地区再整備区民会議 (通算第 12 回<最終>) に出席。

—旧豊多摩監獄の正門のある旧法務省跡地に計画中の「平和の森小学校」に関して (要望書や質問書による意見表明)

7 月 22 日に区と教育長へ「平和の森小学校の計画実施に関しての要望書 (19 日付)」を提出すると共に、中野区議会の各会派へ報告。1 月 15 日に区長と所轄へ「旧豊多摩監獄正門に関する質問書」を提出 (2 月 4 日に所轄から回答メール)。

—哲学堂公園の中に計画されている学習展示施設計画に関して (前年度から継続しての意見表明)

10 月 31 日に区長へ「哲学堂公園とその学習展示施設の基本計画再検討に関する要望書」を提出。

## 2. 建築への興味・理解を高める活動

—バスツアー

恒例となっている区民と建築家で著名建築等を見学するバスツアーを、10月8日にTAAFと共催、今回は箱根周辺が対象。区民27名、TAAF7名、JIA8名が参加。なお、見学したザ・プリンス箱根芦ノ湖が台風被害を受けたため、18日に支配人へ台風被害の見舞状を送付。一まち歩き

11月3日に区の「中野まちめぐり博覧会」に参加してのまち歩きを実施、区民9名、JIA5名が参加。

#### 11. 三多摩地域会（代表：高田典夫）

2019年度は、例年通り「空間ワークショップ」が活動の中心となり、小学校6年生を対象とした「授業としての空間ワークショップ」は、八王子市の5校、多摩市の1校、武蔵野市の1校および杉並区の1校での実施をコーディネートし、一般参加型の空間ワークショップを東大和市の1施設、杉並区の幼稚園、日野市の大学で企画・コーディネートするとともに、神奈川、城北、世田谷、などの他の地域会がコーディネートして実施された空間ワークショップにも積極的に参加した。15年の歴史を持つ「授業としての空間ワークショップ」は、担当の図工専科の先生方との協働でそのフォーマットを作り上げてきて、現在の形になり、建築造形教育だけでなく、「まちづくりは、ひとづくりから」という観点からの一般教養としての建築教育を担い、子どもたちの社会性を育む活動として認められてくるとともに、地域とともに生きる建築家の存在が認められてきたように感じる。また、この活動は、2016年から実施協力をしている実践女子大学日野キャンパスを舞台としたライトアップ・プロジェクト「光の庭」の会場構成（会場空間演出：実践女子大学建築デザイン研究室）につながり、引き続き、新たな空間提案のサポートをするとともに、この活動に関心を持つ若い世代を育てて、空間ワークショップフォーラムの活動のサポートもしている。

#### 12. 杉並地域会（代表：堀正人）

本年度は土曜学校が地域会活動の中心となりました。地域会が創設された当初から取り組んできた「地域のまちづくり」をもう一度捉え直し、年間のテーマを「杉並らしい、未来のまちの姿を考える」として、複数のパネリストを招いた土曜学校となりました。公共施設の建築やまちづくりにおけるプロセスの重要性が言われて久しく、様々な試みがなされてきました。しかし官民の合意形成が難しく、成功例は多くないようです。そこで今回の土曜学校ではまちづくりとプロセスにフォーカスして、杉並区の現状の把握と検証、その可能性を問いました。行政の方をパネリストに迎えて多方面の方と幅広く意見交換することで、緑地保全の絡む地区計画、住宅地を走る計画道路、防災ネットワーク、まちづくりのための組織、といった杉並区が抱えている現実的な課題を議論することができました。また、この成果は今後の活動に向けて大変有意義

であるだけでなく、JIA以外の方々と問題意識を共有することができました。

第3回は他建築関係団体と共有する課題である「防災とまちづくり」を取り上げ、杉並区の建築士会、事務所協会とでつくる「杉並建築会」大会との共同開催となりました。

地域会の通常総会の催しでは「JIA日本建築家協会の過去・現在・未来」のテーマで対談を行い、JIAの歴史を振り返りました。

パネラー：遠藤勝勲、新庄宗昭、曾根幸一、石井祐樹  
司会：河野進

\*2019土曜学校年間テーマ 「杉並らしい、未来のまちの姿を考える」

・第1回土曜学校6/22「住宅都市・杉並のまちづくり」阿佐ヶ谷駅北東地区を事例として

パネリスト：茶谷晋太郎 杉並区都市整備部まちづくり担当部長・野沢正光 建築家・寺尾信子 建築家 JIA 杉並地域会 コーディネーター：河野進 参加者：40名

・第2回土曜学校9/7「杉並にみる さまざまなみち」みちの公共性とは

パネリスト：三浦純悦 杉並区都市整備部土木計画課長・山本芳明 ランドマーク株式会社代表 コーディネーター：曾根幸一 参加者：26名

・第3回土曜学校11/30「防災とまちづくり」地域でつくる防災の試みとその可能性

杉並建築会第7回大会との共同開催

パネリスト：古屋進 杉並区大宮2丁目自治会長・鈴木進 住まいまちづくり研究室主宰

山田清 人イエまちネットワーク主宰 コーディネーター：松枝廣太郎 参加者：41名

・第4回土曜学校2/8「市民と考えるまちづくり」参画と協働そして共創をめざして

パネリスト：茶谷晋太郎 杉並区都市整備部まちづくり担当部長・小林宏志 トラスト世田谷区まちづくり活動支援担当係長 コーディネーター：林美樹 参加者：32名

・毎月定例で12回の活動会議を行いました。

#### 13. 新宿地域会（代表：広谷純弘）

今年度の新宿地域会の活動は下記のとおりであった。

① 新宿区主催の新年交礼会、建築基準法等改正講習会等へ出席した。（地域会役員一同）

② 2017年度に発行した「新宿建築100景」マップの英語版を作成、発刊した。まずは新宿区立の全10個所の図書館に配布したが、前回の日本語版配布と同様に各図書館の期待が大きかった。今後さらに広く配布するとともに、2017年日本語版の改訂版発行に向けて編集に着手した。これらのマップを使った展示や街歩き、講演会などの開催を計画中である。

なお、英語版については支部役員会で地域会の活動資金を自前で調達することを奨励され、それを受けて大日本印刷株式会社に広告協力を積極的に依頼し、実

現したものである

③ 若手会員の入会促進と活動参加促進を進める中、区内若手建築家を中心とする集まりの新宿 YG 会との交流を深め、地域会活動を次世代へ受け継いでもらうための下地作りをしている。

④ 新宿区への働きかけへの基盤作りとしてスタートした新宿建築設計三団体の連携活動も軌道に乗り、定例会を行っている。2019 年度は、三会共同による区議会党派への政策提案を行った。また、東京都建築士事務所協会新宿支部が幹事会として防災系の講演会を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった。

#### 14. 城東地域会 (代表：岸成行)

地域からの問題提起と関連のワークショップ、講演会、見学会の実施が城東地域会の活動の中心である。

##### 1 設計コンペの開催

その年の一級建築士合格者を対象にした提案型コンペ「なりたて建築士のための設計コンペ」を4月に開催し、あわせて講演会「68歳の建築士法を考える」を開催した。建築士試験のあり方、建築士法のありようなどについて問題提起をした。今年度のコンペ開催は新型コロナウイルスの感染拡大により延期となった。

##### 2 東京水景デザインサーベいの開催

隅田川の橋梁の塗装改修工事が進む中で、都市のランドマークとしての橋梁の色彩について、見学会とシンポジウムを開催した。また、東京近郊の水景デザインサーベいとして静岡県三島市の源兵衛川の見学会と演会を開催した。三月に予定した千葉県佐原の見学会と講演会は、新型コロナウイルスの感染拡大により延期となった。

##### 3 子供空間ワークショップの開催

未来を担う子供達が、ものづくり、共同作業、建築間の楽しさを体験することを目的に、今年も中央地会と連携し、中央区立城東小学校で子供空間ワークショップを開催した。

##### 4 その他

五月の東京都学生卒業設計コンクールに協賛した。京の他の地域会にも協賛を呼びかけた。六月は隅田クリーンキャンペーンに参加した。都と隅田川兩岸各区が主催し、各団体合わせて数百名が参加する。岸のミを収集し、水質検査もおこなう。隅田川の浄化は確実に進んでいる。

#### 15. 文京地域会 (代表：手嶋保)

文京地域会では建築士会文京支部が連携し[文京建築会]を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦をはかり地域社会に貢献することを目指しています。また会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深め、様々な活動が行われ現在も展開されています。

す。おもな活動内容について下記にご紹介いたします。

##### ●文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々とのつながりある活動の場となっています。今年度で9回を数えますが、今後は発展的に市民の方々にも運営から参加していただけるよう考えております。

##### ●小石川フォーラム

建築家を目指す若手や学生などの交流の場として小石川フォーラムを立ち上げました。第2回は建築家の鈴野浩一さんに登壇していただき、その活動を通じてこれからの建築家のあり方についてプレゼンしていただきました。

##### ●JIA 京都地域会等他会との交流

11月に交流会を実施しました。吉村順三の設計による荻窪の家、清家清の設計による清家邸など4件の見学と懇親会を開催しました。

##### ●文京と区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定をむすび、現在は区との情報交換会を行っています。

#### 16. 渋谷地域会 (代表：南條洋雄)

##### ■事業概要

19年度の渋谷地域会は正会員49名、会友18名でのスタート。月例会は15~20名が集まる安定した活動を実施出来た。

今回、通常例会は会員の作品、研究成果等の発表の場である「語る会」と設計者が特に関心の持たれる資料メーカーや設計支援業等の説明会となる「学ぶ会」をあわせた2テーマ以上の例会を頻繁に行い例会の充実をはかった。

また会員の建築作品の現地見学会や、多くの参加者が画像を持込んで語る恒例の新年会 CHIT-CHATTING NEW YEAR も行われた。

渋谷区との協力関係ということでは、8月、9月の総合防災訓練(防災フェス)で東京都建築士事務所協会渋谷支部とともに応急危険度判定のデモンストラーションを行った。今回はJIAの取り組みも踏まえてSDGSをテーマに展示ブースを企画した。SDGSを学び、意識するための良い機会となった。

また防災点検の日には応急危険度判定員登録メンバーが区役所の防災本部予定の場所に集合し被災時の具体的な手続をシミュレーションした。

会員間の親睦やビジネスチャンス獲得につとめるとともに、毎年ながら参加することが「楽しく役に立つ地域会」を心がけた。

##### ■例会開催状況■

4月25日(木) 通常総会、語る会、山本圭介「三つの学寮設計を通して考えたこと」

5月23日(木) 見学会、笠井誉仁「クラムハウス」  
 6月28日(土) 見学会、菅原賢二「究極、狭小ワンルーム」  
 7月25日(金) 学ぶ会「地盤ネットに話を聞く」、語る会、平井正之「スペイン・バスク地方の旅」  
 8月25日(土) 見学会、南條洋雄「百年建築見学会」+「SHIBUYA BOSAI FES 準備会」  
 8月31日(土) 9月1日(日) 渋谷区総合防災訓練、防災フェス参加  
 10月24日(木) 語る会、白木達孝「南イタリア歴史と文化を巡る旅」  
 11月23日(木) 学ぶ会「壁」機能性塗料の話とレンガの話  
 12月19日(木) 学ぶ会「BIM」語る会 小倉+香山「中南米キューバのハバナ紀行」  
 1月23日(木) 建築家クラブ 特別例会 新年会「NEWYEARS' CHIT-CHATTING SHIBUYA」

#### 17. 世田谷地域会 (代表：柿崎豊治)

□区内小学校5校での空間WS及び士会主催のWSへの支援参加を行った。  
 新たに設けられた空間ワークショップフォーラムとの連携などの試みが行われた。  
 夏の熱中症対策の影響もあり一部のワークショップは屋内での割りばしと輪ゴムのワークショップでの対応となった。(子供たちには好評だった)  
 □JIA事業活動助成事業として「世田谷区民会館・区庁舎の建築と広場 保存再生に向けた活動の記録」を発行。2008年以降12年に及ぶ同保存再生活動の経緯、この件に関する学識者の論考、この間の社会情勢を反映しつつ推移するマスコミ報道等を含め、この活動を多面的に記録し総括に代えた。作成した冊子を世田谷区、日本建築学会、JIAなどの関連部署及び区民有志に配布した。  
 □行政との連携では昨年に引き続き世田谷区建築物安全安心協議会に参加。区の空き家問題対策、雨水流失抑制対策、建築物耐震化支援制度などへの提言を行った。  
 □世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きを継続して開催し、地域のまちづくり活動団体や市民との交流を行った。世田谷の景観・歴史・地勢的な特性への理解を深めながら、市民との交流を図った。  
 □地域会員の掘り起こしのため、区内在勤在住の会員宛のダイレクトメールを配信して地域会活動への参加を促した。評価すべき結果は得られなかったが、今後も活動刷新と会員発掘の試みを継続する。

#### 18. 千代田地域会 (代表：市川達夫)

2007年10月に発足した千代田地域会は、地域景観観察からスタートし、展覧会の開催、近代建築遺産の保存、小学校の出前授業、と活動域を広げ、地域の建築家の団体として、社会貢献を目指して活動してきました。以下に2019年度の主な活動内容を報告します。

○千代田区を舞台とした学生設計展  
 卒業設計展から、学の課題設計や大学院修士設計まで広げてきたこの事業も12回目となりました。日本大学理工学部1号館4階のCSTギャラリーで10月31日～11月2日まで6作品を展示し、最終日にトークセッションを行い、「JIA千代田地域会2019学生最優秀作品賞」・「同優秀作品賞」を選びました。

#### ○富士見小学校社会科授業

区立富士見小学校3年生への出前授業「凸凹たんけん街歩き」を、5月28日に実施しました。今年で5年目になります。2クラス計67名の児童を4班に分け、地域会会員8名と担任教師が引率し、校区内の地形と歴史(まちの成り立ち)を観察、帰校後、会員が作成した地形模型を前に、おさらいをしました。

#### ○公開メンバーズトーク・ゲストスピーチ

8月27日に木谷靖孫「積雪寒冷地の建築—失敗から学ぶ」(第34回)、11月12日に篠田義男「ロシア・アヴァンギャルド建築を訪ねて」(第35回)を開催しました。

#### ○景観観察と調査分析

地域の現況を、より詳しく観察し、提言に結び付けられる発見を目指して、当面、番町地域を調査対象にして行くこととし、7月13日には、まち歩き観察を行いました。

#### ○その他

近隣地域会との交流・連携の試みとして、地域会7月9日の定例会議を文京地域会と合同で行い、それぞれの地域会の活動を報告発表し、意見交換を行いました。

#### 19. 中央地域会 (代表：小田恵介)

#### ○教育活動 | こどもワークショップ

中央区立城東小学校 城東ひろば 第9回 空間ワークショップ(城東地域会と共催)。

開催日時：2019年4月28日(土)。

城東小学校は震災を受けて、先生も生徒達も建物の耐震について関心が高い。ワークショップ前の図工の時間に、家の耐震構造について構造建築士が授業を行っている。今年も7月に、仮移転先の仮設校舎の中で、4班に分かれて、5年6年生約30名が共同で作品を構築した。毎年、各班とも作りながらイメージが膨らみ、短時間で素晴らしい空間構成が出現する。父母参観日に開催される。

校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、既に再開発が決定され、超高層ビルの中に平成34年頃移転する。超高層ビル内に設置される初めての小学校となる。当初の予定では平成29年から現校舎解体だったが、一昨年度はすでに解体工事が完了し、新築工事が始まった。

#### ○地域交流活動

2012年11月より、JIA保存問題委員会との協働で、「三原橋センター」の解体に際して各種の意見交換会を重ねた。2015年に解体されたが、資料のアーカイブ化のため資料整理を地域の人と進めている。2019年度

は、関連資料の具体的な保存方法を検討する。4月にコアメンバーの大絵晃世氏から収集資料の提供の申し出があり保存先を検討中。

#### ○ 会員交流活動

2016年6月に中央地域会設立10周年を迎え、昨年度は13年目。月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、2016年は7つ、2017年は8つ、2018年は3つの事務所訪問して、会員の日々の活動の一端に触れ交流を深めた。今年は残念ながら諸般の事情で開催できなかった。11月に大嘗宮一般公開に合わせて見学会を行った。

#### ○ 中央建築三会の立ち上げ

文京、新宿地域会他に倣い、中央建築三会の立ち上げについて、一昨年夏以来、士会、事協会とも打合せを進めており、2019年3月に士会・中央支部設立総会が開催され、新年度から具体的な活動がスタートしたため、近く、中央建築三会を立ち上げる。同年4月に三会の代表他の役員が集まり、今後の連携の可能性について協議した。中央区からの期待も大きく、三会が緊密に連携しながら、これまで以上に地域に根ざした活動を行う。

### 20. 城南地域会（代表：木村利雄）

城南地域会は、年度初めの4月に1泊2日の研修会を開催することが恒例になっています。

今年は伊豆の伊東にある品川区保養所・伊東しながわ荘で行いました。年間の活動について、より深く検討・議論を行い今後の進め方などについて確認をしました。

今年度は、大田区・品川区をより一層把握するために、通常の街歩き以外にも祭りの見学を積極的に行い地域の伝統行事や町会活動の調査・理解に努めました。また、ふれあいフォーラム第9回は、NHKの「ブラタモリ」に何度も出演されている岡本哲志氏を講師に迎え活発な議論がより展開するようにシンポジウムの企画としました。

主な活動は下記の通りです。

- ・5/11 羽田水神社・玉川弁財天・水神祭の見学
  - ・5/31・6/1 城南地機アークトリップ2019「群馬ツアー」
  - ・6/9 品川神社・例大祭の見学会
  - ・6/29 第19回城南散歩「獵師町の名残を訪ねて、羽田地区」
  - ・7/28 羽田神社・例大祭の見学会
  - ・8/19 鮫洲神社・例大祭の見学会
  - ・11/2/ ふれあいフォーラム第9回：「みち」と「まち」(Part4) <羽田地区の旧獵師町を巡って>
- 木密地域であった羽田獵師町地区の現状から将来を考える

なお、2020年3月には大田まちづくり公社から、大田区の公共施設について建築基準法12条2項及び4項に基づく点検業務を受託することになりました。

行政とのかかわりを通して新たな市民活動の場になるようJIAの地域会として活動の場を広げていきたいと考えています。

### 21. 城北地域会（代表：鈴木和貴）

主な地域会活動は、1) 地域会誌「KNIT」の発行に向けての編集、2) まち歩きの開催、3) 空間ワークショップの開催でした。

#### 1) 地域会誌「KNIT」の発行に向けての編集

昨年2月に「KNIT #5」を発行しましたが、今年度も引き続き、地域でのまちづくり活動団体や行政、図書館などの公共施設、空間ワークショップでお世話になった学校や団体などに配布し地域会の活動を紹介しました。お受け取りいただいた方からは書面での礼状も含めご意見や感想をいただき、改めて地域の課題や地域での建築家の役割に気づかされました。引き続き、次号の発行に向けて編集を始めました。特集は「こどもの空間」。「地域の風景、営み、文化をこどもたちにどうつなげていくか、行政や地域のおとなはどう考えているのでしょうか。それを考えるためには、こどもが地域・空間・環境からなにを学んでいくのかを知ることが重要」として、世代から世代へ伝えることやこどもにつなげることを見つけようとして、原稿を持ち寄りました。新年度早々には発行できる予定です。

#### 2) まち歩きの開催

まち歩きは、城北4区をそれぞれ巡る企画です。7月には北区内をかつて流れていた谷田川に沿って、9月には豊島区内をかつて流れていた谷端川に沿って歩き、それぞれの旧河川が作り出した景観を地域の歴史とともに考えるものです。また、11月には練馬区の江古田駅周辺の武蔵大学、武蔵野音楽大学、日本大学芸術学部の3大学や新しくなった練馬区立豊玉第二中学校を巡り、街中の新しい学校建築と街のにぎわいを体感しました。3月末の板橋区のまち歩きは延期でしたが、いつでも再開できるよう準備は整っています。

#### 3) 空間ワークショップの開催

今年度の城北地域での空間ワークショップの開催は1月に開催した板橋区立加賀小学校の1校でした。同校での開催は3年連続となります。当日は朝からの小雨が雪に変わる天気、初めての体育館での開催となり、4年生の時から楽しみにしていた子供たちにとっては少し勝手が違ったかもしれません。思い思いのイェが10棟、完成しました。対象：6年生 10班・74人

### 22. 港地域会（代表：宮田多津夫）

今年度の港地域会は、村上晶子氏から代表を引き継ぎ、これまでのセミナーを中心とした市民イベント活動に加え、月例地域会で港区のまちづくりや環境問題に対する意見交換を展開して港区周辺のまちづくりを研究してきました。

その研究活動は対外的な活動には至っていませんが、港地域内の再開発や区画整理がもつ矛盾や、飛行経路

変更に対する騒音問題などの課題を会員同士で討議し「社会における建築家の役割」を念頭に課題解決方法を探っています。

イベントに関しては、港地域会設立以来今年で31回を迎えたMASセミナーを中心に、原則全員参加でイベントを企画し実施しています。MASセミナーは、港地域会の建築家たちと一般市民の方々と語り合える場を提供しています。建築は権威化しやすい世界で、計画も設計も専門家の手中にあります。しかし、本来街も建物もそこに生きる圧倒的多数の素人のものです。その認識を欠いたまま建築に係ることの危なさを感じ、建築家の意識改革のために市民との意見交流を行ってきました。年間テーマは「建築の祖型」を継承して掲げています。第31回は7月6日(土)「繋ぐ建築」連健夫会員担当、第32回は11月23日(土)「5G時代の建築」武田有左会員担当が実施され、第33回は3月14日(土)「デザイン新時代へ」プロダクトデザインと建築の差と未来、大倉富美雄会員担当で準備は進んでいましたが、コロナウイルスの影響で延期されています。参加者は一般市民でしかも小学生から90代の海外移住経験者まで幅広い人たちであり、建築家の意識改革のトレーニングを積むことができます。港地域会では少人数ながら、住宅、建築、環境、まちづくり、プロダクトデザイン、建築教育などの専門家が存在する特徴を生かして幸運にも市民との交流活動が継続しています。

その他として、ホームページによる広報活動にも力を入れ、新規会員の導入と建築家の職能を広める活動を行っています。

### 23. 目黒地域会 (代表: 木村丈夫)

●地域会定例会は、JIA 会館に於いて月一回のペースで開催した。

#### ●建築見学会

9月7日午前、4月に新築開校したばかりの東京音楽大学中目黒・代官山キャンパスの見学会を実施した。都と目黒区の共同所有地の払い下げに際して事業コンペが行われ、最も公益性を重視した東京音楽大学チームの案が選定された。日建設計+戸田建設の設計者の丁寧な説明を聞きながら施設の内外をじっくりと見学させて頂いた。

●第16回「いい緑のある 住みたい街をつくろう まち歩き」の会

9月7日午後、「目黒区景観アドバイザー会議の建築を巡る」と題して、前目黒区景観アドバイザー棚橋廣夫会員のコーディネートで、東京音楽大学を含め、目黒川沿いの幾つかのアドバイスをを行った建物を見学した。景観アドバイスの内容とその結果について検証し、参加者間での情報共有を図った。

●2019年度目黒区景観アドバイザーの建築分野担当には目黒地域会から平倉直子会員が選任された。

●目黒区と建築関係4団体との懇談会が5月10日に

開催され、目黒地域会からは3名が参加した。空き家対策、防災訓練計画、都市整備・防災関連事業等について区及び各団体との意見交換を行った。

●「目黒区民センター見直し」に関する説明会に参加。意見書を提出した。

●「国家公務員駒場住宅跡地活用」に関する説明会に参加。意見書を提出した。

●2020年2月28日開催予定で準備を進めていた第10回街かどトーク“北欧から学ぶサステイナブルデザインとAI時代の暮らし”は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を延期した。